

Red Hat Linux 6.2J

Official Red Hat Linux インストレーションガイド

Red Hat, Inc.

〒101-0021 東京都 東京都千代田区外神田 2-5-12 タカラビル 6 階 TEL 03-3257-0411 FAX 03-3257-0410

© 2000 Red Hat, Inc.

Red Hat は、Red Hat, Inc. の登録商標であり、Red Hat 「Shadow Man」 ロゴ、「RPM」、「RPM」 ロゴ、「Glnt」は Red Hat, Inc. の商標です。

「Linux」は、Linus Torvalds 氏の登録商標です。

「Motif」と「UNIX」は、The Open Group の登録商標です。

「Alpha」は、Digital Equipment Corporation の商標です。

「SPARC」は、SPARC International, Inc. の登録商標です。SPARC 商標のついた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャに基づくものです。

「Netscape」は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の登録商標です。

「True Type」は、Apple Computer, Inc. の登録商標です。

「Windows」は、Microsoft Corporation の登録商標です。

その他すべての商標は、所有する各社の商標です。

Copyright © 2000 by Red Hat, Inc. Open Publication ライセンス V0.4 以降に基づいた条件に準じ、配布されています。（最新のバージョンは、<http://www.opencontent.org/openpub/>にてご覧いただけます。）

このドキュメントを改編して配布することは、権利保持者の明確な許諾がない限り禁止されています。

本の作業、またそれから派生した作業を商用に配布することは、権利保持者の明確な許諾がない限り禁止されています。

Printed in Japan

目次

Red Hat Linux 6.2J

1 章	インストールを始める前に	4
1.1	準備のための7つのステップ	5
1.2	システム要件テーブル	19
2 章	インストールを始める	22
2.1	インストールプログラムのユーザインタフェース	22
2.2	インストールプログラムの起動	24
2.3	インストール方法の選択	29
2.4	インストールの開始	30
2.5	言語の選択	32
2.6	キーボードの設定	33
2.7	マウスの選択	34
2.8	Red Hat Linux へようこそ	36
2.9	インストールオプション	38
3 章	Red Hat Linux 6.2J のインストール	40
3.1	インストールの続行	40
3.2	fdisk によるパーティショニング	43
3.3	パーティション設定を自動的に行う	46
3.4	システムのパーティション設定	48
3.5	フォーマットするパーティションの選択	58
3.6	LILO のインストール	59
3.7	ネットワークの設定	65
3.8	タイムゾーンの設定	67
3.9	アカウントの設定	68
3.10	認証の設定	70
3.11	パッケージグループの選択	72
3.12	GUI X 設定ツール	76
3.13	インストールの準備ができました	80

3.14	パッケージのインストール	82
3.15	ブートディスクの作成	83
3.16	インストール完了	84
4 章	Red Hat Linux 6.2J の新機能	88
4.1	インストール関連の機能拡張	88
5 章	現行システムのアップグレード	90
5.1	アップグレードとは	90
5.2	システムのアップグレード	91
5.3	アップグレードのカスタマイズ	91
5.4	アップグレードするパッケージの選択	92
5.5	パッケージのアップグレード	95
5.6	アップグレード完了	95
付録 A	テクニカルサポートのご利用方法	98
A.1	ユーザー登録をお忘れなく	98
A.2	Red Hat サポートの概要	98
A.3	Red Hat サポートの範囲	100
A.4	Red Hat サポートシステム	100
A.5	テクニカルサポートのご利用方法	101
A.6	テクニカルサポートに関する疑問	103
付録 B	パーティションレスインストール	104
B.1	パーティションレスインストールの長所と短所	104
B.2	パーティションレスインストールの実行	105
付録 C	Red Hat Linux の削除	112

1 インストールを始める前に

本章では、Red Hat Linux のインストールの準備方法について説明します。2つのメインセクションに分かれます。

- インストールの準備を行うための7つのステップ (errata のチェック、ハードウェアの互換性、フロッピーの作成、など)。
- ハードウェア情報を収集するためのシステム要件テーブル

Red Hat Linux のインストールはとても簡単ですが、準備に時間をかけることで、さらにスムーズに事が運ぶことになります。本章では、インストールに先立って実行する必要があるステップについて説明します。

注意:

現時点で Red Hat Linux 2.0 (またはそれ以降) を使用している場合は、アップグレードを実行することができます。本章をざっと読んで基本事項を再確認し、次に2章 インストールを始めるを参照して、その指示にしたがって作業を進めてください。アップグレード手順は、インストール手順と同じように開始されます。アップグレードを実行することにした場合は、5章 現行システムのアップグレードを参照してください。

経験のあるユーザで、基本事項を再確認する必要がない場合は、2章 インストールを始めるまで進み、インストールを開始することができます。

ヒント

質問に対する答え、および以前のインストール中またはインストール後に発生する可能性のある障害については、「Red Hat Frequently Asked Question」を参照してください。オンラインFAQは以下のサイトにあります。 http://www.redhat.com/support/docs/faqs/rhl_general_faq/FAQ.html

1.1 準備のための7つのステップ

Red Hat Linux のインストールに先立って実行する必要があるステップが7つあります。

1.1.1 ステップ 1 - 手元に正しい Red Hat Linux がありますか？

Official Red Hat Linux のボックスをお持ちの場合は、準備完了です。ただし、時にはミスも発生しますから、ちょうど良い機会でもあるのでボックスの内容をもう一度チェックしてください。

Red Hat Linux ボックスには、登録カードが含まれています。そのカードの裏面にボックスの内容が書かれています。この内容と照合することで、ボックスに含まれるディスクとマニュアルがすべて揃っていることを確認してください。

Red Hat, Inc. (またはそのディストリビュータ) から Official Red Hat Linux ボックスを購入したにも関わらず、リストされた項目の中に足りないものがある場合は、弊社にお知らせください。お問い合わせ先の情報も登録カードに記載されています。

お持ちのものがボックスセットでない場合でも問題ありません。

もちろん、誰もが Red Hat Linux ボックスを購入する訳ではありません。他社が作成した CD を使用しても、あるいは FTP 経由でも Red Hat Linux をインストールすることはまったく可能です。そのような場合は、開始す

るにあたって一枚または複数毎のディスクを作成する必要があるかもしれません。

FTP 経由のダウンロードとインストールについては、以下のサイトを参照してください。 http://www.redhat.com/download/howto_download.html。

Red Hat 社製ではない CD-ROM から Red Hat Linux をインストールする場合は、ブートディスクが必要です。インストール中に PCMCIA デバイスを使用する場合(ラップトップなど)は、PCMCIA ブートディスクが必要です。CD から直接にインストールを開始することも可能です。この点については、各種のインストール方法を説明する際に詳しく説明します。

ディスクの作成方法については、「1.1.6 インストールディスクの作成」を参照してください。

1.1.2 ステップ 2 ご使用のハードウェアは Red Hat Linux 6.2J との互換性を持っていますか？

古いシステムまたは自作のシステムを使用するユーザにとっては、ハードウェアの互換性が重要です。過去二年の間に工場生産されたシステムに含まれるハードウェアであれば、ほとんどは Red Hat Linux 6.2J との互換性があるはずですが、ただし、ハードウェア仕様は毎日のように変化し、進歩しているため、すべてのハードウェアと 100% の互換性を保証するのは困難です。

まずは、Red Hat のオンラインリソースを使用して、ご使用のハードウェアが互換性を持っている、あるいはサポート対象になることを確認してください。ハードウェア互換性リストは、以下のサイトにあります。
<http://www.redhat.com/hardware>。

次に、可能な限りシステムハードウェア情報を収集してください。そのための説明は、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』の「インストールに関わるリファレンス (Windows ユーザ用の説明を含む)」にあります。本章の最後にあるシステム要件テーブル (1.2 システム要件テーブルを参照) に記入して、インストール中に参照してください。

1.1.3 ステップ 3 - Errata をチェックしましたか？

ほとんどの場合にはインストール前に errata をチェックする必要はありませんが、チェックしておくのも良いことです。

Red Hat はアップデートされたディスクイメージ、マニュアル、およびその他の便利な errata ダウンロードデータを提供しています。

Errata の参照方法は 2 種類あります。

1. オンライン -- <http://www.redhat.com/support/errata>; オンラインで参照できる errata を提供しています。ダウンロードディスクイメージも簡単にダウンロードできます。
2. 電子メール -- 空のメールメッセージを errata@redhat.com に送信すると、インストールプログラムおよびソフトウェアそのものに関する完全な errata のテキスト一覧が記述された電子メール(その時点で errata が存在すれば)を受け取ることができます。また、errata においてアップデートされたパッケージおよびディスクイメージへの URL も含まれます。それらの URL を使用すれば、必要なディスクイメージをダウンロードすることができます。注意:ディスクイメージを転送する際には、バイナリモードを使用してください。

時にはインストールが失敗することもあります。そのような場合には、インストールを正しく行うために改訂版のディスクイメージが必要です。その場合は、Red Hat Linux errata 一覧を通じて特別なイメージを公開しています。

これは比較的まれなことなので、まずは標準のディスクイメージを試した方が時間の節約になります。インストールの実行時に障害が発生した場合に限って、errata を参照してください。

障害が発生した場合は、新しいディスクイメージ(ファイル名の最後は常に .img です)を含むエントリをフォーカスしてください。発生した障害に当てはまるエントリが見つかったら、ディスクイメージのコピーを入手し、「1.1.6 インストールディスクの作成」に記載された指示にしたがってイメージを作成します。

文書の errata も利用可能です。文書 errata に対して重要な変更が行われた場合は、オンラインの errata も確実にアップデートされます。文書のアップデート情報は、以下のサイトで見つかります。 http://www.redhat.com/support/errata/doc_errata/。

1.1.4 ステップ 4 - ディスク容量は十分ですか？

今日のオペレーティングシステムは、ほぼすべてがディスクパーティションを使用しています。Red Hat Linux も例外ではありません。Red Hat Linux のインストール時には、ディスクパーティションに関する作業を行う必要があるかもしれません。ディスクパーティション関連の作業を行ったことがない (または基本概念をざっと参照したい) 場合は、作業を進める前に『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』の付録にある「ディスクパーティションの方法」を参照してください。

Red Hat Linux がシステム上の唯一の OS となるような「全く新規の」インストールを行うのではない場合、およびアップデートを実行するのではない場合は、インストール用に使用できる十分なディスク領域がハードディスクドライブ上にあることを確認する必要があります。

このディスク領域は、インストール済の他の OS、たとえば Windows、OS/2、あるいは別のバージョンの Linux、が使用するディスク領域とは別個のものでなければなりません。そのために一つまたは複数のパーティションを Red Hat Linux 専用にします。

インストールプロセスを開始する前に、以下のいずれかの条件が満たされなければなりません。

- コンピュータに、Red Hat Linux のインストールで利用できる、パーティションの設定されていない十分なディスク領域があること。
 - Red Hat Linux をインストールするためのディスク領域を確保するために、削除して解放してもかまわない、一つまたは複数のパーティションがあること。
 - 既存のフォーマット済 FAT パーティションがあつて、パーティションレスインストールによってインストールを実行すること (付録 B パーティションレスインストール)。
-

必要な容量に関する参考として、以下にインストール方法とそれぞれの場合の容量の最低要件をリストします。パーティションレスインストールに関する要件も含まれます。

- GNOME ワークステーション - 700MB
- KDE ワークステーション - 700MB
- サーバ - 1.7GB
- カスタム (すべてを選択した場合) - 1.7 GB

このインストールクラスについての詳細は、1.1.7ステップ7-どのインストールタイプが最適ですか?を参照してください

それらの条件が満たされるかどうかは確かではない、または Red Hat Linux をインストールするために領域を解放する方法を知りたい場合は、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』の付録を参照してください。

1.1.5 ステップ 5 - Red Hat Linux をどのようにインストールしますか?

次に、どのタイプのインストール方法が最適なのかを判断しなければなりません。以下のオプションがあります。

CD-ROM

Red Hat Linux 6.2J のボックス (または Red Hat Linux CD-ROM)をお持ちで、かつ CD-ROM ドライブがある場合。この方法では、ブートディスク、ブート可能 CD-ROM または PCMCIA ブートディスクが必要です。

ハードディスクドライブ

Red Hat Linux ファイルをローカルハードディスクドライブにコピーしてある場合。この方法では、ブートディスクまたは PCMCIA ブートディスクが必要です。

NFS イメージ

Red Hat Linux CD-ROM または Red Hat Linux のミラーイメージをエクスポートする NFS サーバからインストールする場合。ネットワークブートディスクまたは PCMCIA ブートディスクが必要です。

FTP

FTP サーバから直接インストールする場合。ネットワークブートディスクまたは PCMCIA ブートディスクが必要です。

HTTP

HTTP ウェブサーバから直接インストールする場合。ネットワークブートディスクまたは PCMCIA ブートディスクが必要です。

1.1.6 ステップ 6 - どのようにインストールを開始しますか？

ステップ 5 で選択したインストール方法にしたがって、インストールプロセスの開始方法を選択しなければなりません。どのブートメディアを使用しますか？

ブート可能 CD-ROM

CD-ROM ドライブからのブートが可能な場合は、Red Hat Linux CD-ROM を使用してインストールプログラムをブートし、ローカル CD-ROM によるインストールを実行することができます。

ローカルメディアブートディスク

Official Red Hat Linux 6.2J のボックスを購入した場合は、ボックス内にローカルブートディスクがあります。CD-ROM ドライブがブート可能ではない場合の CD-ROM からのインストール、またはハードディスクドライブからのインストールの場合に、このディスクを使用することができます。

ネットワークブートディスク

FTP、HTTP、または NFS 経由のインストールを実行する場合は、独自のネットワークブートディスクを作成しなければなりません。ネットワークブートディスクイメージファイルは `bootnet.img` で、Red Hat Linux/Intel CD の `images` ディレクトリの中にあります。

PCMCIA ブートディスクレット

以下のチェックリストを、PCMCIA ブートディスクレットを作成する必要があるかどうかを判断する際の参考にしてください。

- CD-ROM から Red Hat Linux をインストールし、かつ CD-ROM ドライブが PCMCIA カード経由でコンピュータと接続している場合は、PCMCIA ブートディスクレットが必要になります。
- インストール中に PCMCIA ネットワークアダプタを使用する場合は、PCMCIA ブートディスクレットが必要になる可能性があります。

必要な場合は、PCMCIA ブートディスクレットを作成しなければなりません。PCMCIA ブートディスク用イメージファイルは `pcmcia.img` で、Red Hat Linux/Intel CD の `images` ディレクトリの中にあります。

インストールディスクレットの作成

イメージファイルからディスクレットを作成する必要がある場合があります。たとえば、Red Hat Linux の errata ページから入手した、アップデート済のディスクレットイメージを使用したり、ブートディスクレットを作成したりする必要があるかもしれません。

イメージファイルには、ディスクレットの内容の正確なコピー (またはイメージ) が含まれています。ディスクレットには、ファイルに含まれるデータに加えてファイルシステム情報も含まれるため、ディスクレットへの書き込みを行うまではイメージファイルを使用することができません。

まず、空のフォーマット済、1.44 MB の 3.5 インチのディスクレットが必要です。3.5 インチディスクレットドライブを使用してコンピュータにアクセスし、MS-DOS プログラム、またはほとんどの Linux 系オペレーティングシステムで使用する `dd` ユーティリティを実行できる必要があります。

Red Hat Linux CD の `images` ディレクトリには、Red Hat Linux/Intel 用のブートイメージが含まれています。

適当なイメージを選択したら、イメージファイルをディスクレットに転送しましょう。



MS-DOS 上でのディスク作成

MS-DOS 上でディスクを作成するには、Red Hat Linux CD の `dosutils` ディレクトリの中にある `rawrite` ユーティリティを使用します。まず、空のフォーマット済 3.5 インチディスクに適切なラベルを貼り付けます (たとえば、「ブートディスク」または「アップデートディスク」)。そのディスクをドライブに挿入します。次に、以下のコマンドを使用します (CD-ROM ドライブが `d:` であるとします)。

```
C:\> d:
D:\> cd \dosutils
D:\dosutils> rawrite
Enter disk image source file name: ..\images\boot.img
Enter target diskette drive: a:
Please insert a formatted diskette into drive A: and
press --ENTER-- : [Enter]
D:\dosutils>
```

まず `rawrite` はディスクイメージのファイル名を入力するように指示します。そこで、書き込むイメージのディレクトリと名前を入力します (たとえば、`..\images\boot.img`)。次に、`rawrite` はイメージの書き込み先ディスクドライブを入力するように指示します。そこで、`a:` と入力します。最後に、`rawrite` は、指定したドライブの中にフォーマット済のディスクがあることを確認するように指示します。[Enter] を押して確認すると、`rawrite` はイメージファイルをディスクにコピーします。別のディスクを作成する必要がある場合は、そのディスクにラベルを貼り付けてから、適切なイメージファイルを指定して `rawrite` を再度実行します。

Linux 系 OS 上でのディスク作成

Linux (またはその他の Linux 系オペレーティングシステム) 上でディスクを作成する場合は、3.5 インチディスクを表すデバイス (Linux では `3,5 /dev/fd0` とされています) に対する書き込み権限を持っていないければなりません。

まず、空白のフォーマット済ディスクに適切なラベルを貼り付けます (たとえば、「ブートディスク」、「アップデートディスク」)。それをディスクドライブに挿入します (ただし、`mount` コマンドは必

要ありません)。Red Hat Linux CD をマウントしたら、目的のイメージファイルを含むディレクトリに切り換えて、以下のコマンドを使用します(適宜イメージファイル名とディスクデバイスを変更してください)。

```
# dd if=boot.img of=/dev/fd0 bs=1440k
```

別のディスクを作成する必要がある場合は、そのディスクにラベルを貼り付けてから、適当なイメージファイルを指定して dd を再度実行します。

1.1.7 ステップ 7 - どのインストールタイプが最適ですか？

Red Hat Linux には 4 つの異なるクラス、つまりインストールのタイプが含まれます。それらは以下のものです。

- ワークステーション -- Linux の世界は初めてであり、試してみようというユーザにとっては、ワークステーションクラスが最適なインストール方法です。わずかな質問に答えるだけで、すぐにも Red Hat Linux を実行することができます。
- サーバ -- システムを Linux ベースのサーバとして機能させたい、かつシステム設定を余りカスタマイズしたくないというユーザにとっては、サーバクラスが最適なインストール方法です。
- カスタム -- カスタムクラスのインストール方法を使用すれば、最も柔軟なインストールを行うことができます。パーティション構成やインストールするパッケージその他を選択することができます。カスタムクラスのインストール方法は、Red Hat Linux のインストールに慣れているユーザ、および完全な柔軟性が損なわれることを恐れるユーザにとって最適です。
- アップグレード -- システム上ですでに動作している Red Hat Linux 2.0 (またはそれ以降) を素早く最新のパッケージとカーネルバージョンへとアップデートしたい場合は、アップグレードが最適です。

注意:

カスタムクラスのインストールを使用した場合に最も大きな柔軟性が得られます。ワークステーションおよびサーバクラスのインストールでは、いくつかのステップを省略した自動的なインストールプロセスが実行されます。ただし、ワークステーションおよびサーバクラスのインストールに対して、パーティション構成に関する柔軟性が追加されたので、ドライブのパーティショニングをマニュアルで行うことができるようになっています。

これらのクラスでは、インストールプロセスを簡略化するのか(設定の柔軟性が失われる可能性があります)、インストールプロセスはいくらか複雑になりますが、柔軟性を保持するのかという選択肢が与えられます。各クラスを詳細に検討して、どちらが適しているのかを判断してください。

注意:

パーティションレスインストールを実行するつもりの場合は、どのクラスのインストールを実行するかを選択する必要があります。ただし、通常のインストールを実行するユーザに警告する場合とは異なり、システムに関して何らかの情報を失うことを恐れる必要はありません。パーティションレスインストールでは既存パーティションが削除されることはありません。

ワークステーションクラスのインストール

- **GNOME** ワークステーション -- 主としてワークステーションとして使用するシステムへのインストールです。GNOME GUI がロードされ、システムブート時に GNOME が起動されるようにシステム設定が行われます。マニュアルによるパーティショニングを行わないことにした
-

場合、インストールプログラムは既存の Linux パーティションに含まれるすべてのデータを削除し、新しいバージョン用のディスクのパーティショニング方法を決定し、どのソフトウェアパッケージをロードするのかが選択します。

- **KDE ワークステーション** -- 主としてワークステーションとして使用するシステムへのインストールです。KDE GUI がロードされ、システムブート時に KDE が起動されるようにシステム設定が行われます。マニュアルによるパーティショニングを行わないことにした場合、インストールプログラムは既存の Linux パーティションに含まれるすべてのデータを削除し、新しいバージョン用のディスクのパーティショニング方法を決定し、どのソフトウェアパッケージをロードするのかが選択します。

注意:

以前のワークステーションクラスのインストールとは異なり、Red Hat Linux 6.2J ワークステーションクラスのインストールを実行しても、ネットワークデーモン `inetd` はインストールされません。`inetd` がインストールされないため、システムはより安全になります。ただし、`finger`、`ftelnet`、`talk`、および FTP などのネットワーク関連サービスは機能しません。このようなタイプのサービスが必要な場合は、サーバクラスまたはカスタムクラスのインストールを選択してください。

何が行われるのでしょうか？

マニュアルによるパーティショニングを行わないことにした場合、ワークステーションクラスのインストールでは、インストール済のすべてのハードディスクドライブ上のすべての Linux 関連パーティションが削除されて、以下のパーティションが作成されます。

- 64 MB swap パーティション
-

- すべてのファイルを保存するための可変 (正確なサイズは、利用可能なディスク領域によって異なります) サイズのルートパーティション (/ としてマウント)。
- Linux カーネルおよび関連ファイルを保存するための 16 MB のパーティション (/boot としてマウント)。

ディスクパーティショニングに対してこのアプローチを使用すれば、ファイルシステムの構成を最も単純にすることができます。

注意:

ワークステーションクラスのインストールでは、少なくとも 700 MB のディスク領域が必要になります。

システムに既に Windows (Windows 3.1/95/98/NT) がインストールされている場合、ワークステーションクラスのインストールでは、LILO (Linux LOader) を使用してデュアルブートするように、システムが自動的に設定されません。

注意

ワークステーションクラスのインストールでは、すべてのハードドライブ上のすべての既存 Linux パーティションが削除されます。また、別の OS がインストールされている場合は、自動的にデュアルブート環境の設定が試みられます。

サーバクラスのインストール

サーバクラスのインストールでは、システムブート時に、X Window System は設定されず、GUI もロードされません。インストールプログラムによって、任意の種類すべての既存パーティションに含まれるすべてのデータ

が削除され、新しいバージョン用のディスクパーティショニングの方法が決定され、ロードするソフトウェアパッケージが選択されます。

何が行われるのでしょうか？

マニュアルによるパーティショニングを行わないことにした場合、Serverクラスのインストールでは、すべてのインストール済ハードディスクドライブ上のすべての既存パーティションが削除されるので、保存しておきたいものが何もないと確信できる場合に限って、このインストールクラスを選択してください。インストールが完了すると、以下のパーティションが作成されます。

- 64 MB swap パーティション
- 256 MB パーティション (/としてマウント)。
- 最低 512 MB のパーティション (/usrとしてマウント)。
- 最低 512 MB のパーティション (/homeとしてマウント)。
- 256 MB パーティション (/varとしてマウント)。
- Linux カーネルおよび関連ファイルを保存するための 16 MB のパーティション (/bootとしてマウント)。

ディスクパーティショニングに対するこのアプローチを使用すると、サーバクラスのほとんどの作業に関してかなり柔軟なファイルシステム構成が得られます。

注意:

サーバクラスのインストールでは、少なくとも 1,7GB MB のディスク領域が必要になります。

注意

サーバクラスのインストールでは、すべての既存ハードドライブ上の任意のタイプのすべての既存パーティションが削除されます。Linux パーティションであるかどうかとは関係なく、すべてのドライブの情報と既存のオペレーティングシステムが削除されます。

カスタム クラスのインストール

名前からも分かる通り、カスタム クラスのインストールでは、柔軟性を重視しています。カスタム クラスのインストールでは、ディスク領域のパーティショニング方法をユーザが選択することができます。また、システムにインストールするパッケージを自在に選択することができます。さらに、システムの起動時に LILO (Linux LOader) を使うかどうかも指定できます。

カスタム クラスインストールの舞台裏

このセクションでは、カスタム クラスのインストールを実行する場合にのみ行われるステップについて取り扱います。

これは、どのインストールクラスが最適なのかを判断しようとしているユーザの役に立ちます。以下の一覧に含まれる作業を実行するとトラブルが発生するだろうと考えるユーザは、本マニュアルを通読して疑問を明確にした上でなければ、カスタム クラスのインストールを実行すべきではありません。

- パーティショニングの作成カスタム クラスのインストールでは、Red Hat Linux のインストール先を指定する必要があります。(ワークステーションクラスやサーバクラスのインストールでもマニュアルによるパーティショニングというオプションが加わったため、これはカスタム クラスに固有のものでなくなっています。
-

- パーティションのフォーマット -- 新規作成したパーティションをフォーマットしなければなりません。古い(不要な)データを含むパーティションのフォーマットを行う必要があります。(ワークステーションまたはサーバクラスのインストールでマニュアルによるパーティショニングを選択した場合は、どのパーティションをフォーマットするのかを選択する必要があります。)
- インストールパッケージの選択 -- これは、パーティションが設定され、フォーマット用の選択が行われた後で実行されます。ここでは、パッケージのグループ、個別のパッケージ、それら2つの組み合わせ、あるいは「すべて」をインストールするように選択することができます。
- LILO の設定 -- カスタムクラスのインストールの場合は、LILO のインストール先として -- マスタブートレコード (MBR) またはルートパーティションの先頭セクタ -- を選択したり、あるいは LILO をまったくインストールしないように選択したりすることができます。

システムのアップグレード

Red Hat Linux 2.0 (またはそれ以降) をアップグレードする場合、既存のデータは削除されません。インストールプログラムはモジュール形式の 2.2.X カーネルおよびインストール済のすべてのソフトウェアパッケージをアップデートします。これらの説明については、2章 インストールを始めるおよび5章 現行システムのアップグレードを参照してください。

1.2 システム要件テーブル

空欄にシステムの設定と要件を記入してください。これは、現在のシステムを記録し、インストールプロセスを簡単に行う上で役に立ちます。

表 1-1 システム要件

ハードディスクドライブ: 個数、サイズ、タイプ、例: IDE hda=1.2G	1)
---	----

パーティション: パーティションおよびマウントポイントのマップ、例: /dev/hda1=/home, /dev/hda2=/ 場所が分かる場合に記入してください。	2)
メモリ: システムに搭載されたメモリの量、例:64MB、128MB	3)
CD-ROM: インタフェースタイプ、例:SCSI、IDE (ATAPI)	4)
SCSI アダプタ: 存在する場合は、メーカーとモデル番号、例:BusLogic SCSI Adapter、Adaptec 2940UW	5)
ネットワークカード: 存在する場合は、メーカーとモデル番号、例:Tulip、3COM 3C590	6)
マウス: タイプ、プロトコル、およびボタン数、例:汎用3ボタン PS/2 マウス、MouseMan 2 ボタンシリアルマウス	7)
モニタ: メーカー、モデル、およびメーカー仕様、例:Optiquest Q53、ViewSonic G773	8)
ビデオカード: メーカー、モデル番号および VRAM、例:Creative Labs Graphics Blaster 3D、8MB	9)

サウンドカード: メーカー、チップセットおよびモデル番号、例:S3 SonicVibes、Sound Blaster 32/64 AWE	10)
<i>IP</i> アドレス: ドットで区切った4つの数字、例:10.0.2.15 (ネットワーク管理者に確認してください)	11)
ネットマスク: 通常はドットで区切った4つの数字、例:255.255.248.0 (ネットワーク管理者に確認してください)	12)
ゲートウェイ <i>IP</i> アドレス: ドットで区切った4つの数字、例:10.0.2.245 (ネットワーク管理者に確認してください)	13)
一つまたは複数のネームサーバ <i>IP</i> アドレス: 通常は、一つまたは複数の、ドットで区切った数字のセット、例:10.0.2.1 (ネットワーク管理者に確認してください)	14)
ドメイン名: 組織に割り当てられた名前、例:Red Hat は redhat.com (ネットワーク管理者に確認してください)	15)
ホスト名: コンピュータの名前、好みのお名前、例:cookie, southpark.	16)

2 インストールを始める

本章では、Red Hat Linux のインストールプロセスの開始方法について説明します。以下の内容について説明します。

- インストールプログラムのユーザインタフェースに慣れること。
- インストールプログラムの起動。
- インストール方法の選択。
- インストールの開始。

本章の終了時点までに手元のシステム上でインストールプログラムが実行され、Red Hat Linux 6.2J のインストールまたはアップグレードのいずれかのプロセスが開始されます。

2.1 インストールプログラムのユーザインタフェース

以前にグラフィカルユーザインタフェース (GUI) の使用経験がある場合は、以下のプロセスにもすぐに慣れることができるでしょう。経験がない場合でも、マウスを使用して画面を操作し、ボタンを「クリック」するか、テキストフィールドに入力するだけなので簡単です。また、[Tab]キーおよび[Enter]キーを使って、インストール画面を操作することもできます。

注意:

GUI インストールプログラムを使用したくない場合は、テキストモードのインストールプログラムを使用することもできます。テキストモードを使用するには、以下のブートコマンドを入力します。

```
boot: text
```

テキストモードのインストールについての説明は、以下を参照してください。『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』を参照してください。

2.1.1 仮想コンソールに関する注意

Red Hat Linuxインストールプログラムは、インストールプロセスのダイアログボックス以上のものを提供します。シェルプロンプトからコマンドを入力するという方法だけではなく、各種の診断メッセージを利用することができます。この情報は、5つの仮想コンソール上に表示されます。この仮想コンソールの切り換えは一回のキー入力で行うことができます。

Red Hat Linuxのインストール中に問題が発生した場合には、このような仮想コンソールが役に立ちます。インストールコンソールまたはシステムコンソール上に表示されるメッセージは、問題を特定する上で参考になります。仮想コンソール、コンソールを切り換えるためのキー入力、およびその内容の一覧については、表 2-1、コンソール、キー入力、および内容を参照してください。

表 2-1 コンソール、キー入力、および内容

コンソール	キー入力	内容
1	[Ctrl]-[Alt]-[F1]	インストールダイアログ
2	[Ctrl]-[Alt]-[F2]	シェルプロンプト
3	[Ctrl]-[Alt]-[F3]	インストールログ (インストールプログラムから発行されるメッセージ)
4	[Ctrl]-[Alt]-[F4]	システム関連メッセージ
5	[Ctrl]-[Alt]-[F5]	その他のメッセージ
7	[Ctrl]-[Alt]-[F7]	X グラフィック表示

一般に、インストール時の問題を診断しようと試みる場合を除き、デフォルトのコンソール (仮想コンソールの7番) から切り換える必要はありません。ただし、興味があれば、色々と切り換えてみてください。

2.2 インストールプログラムの起動

Red Hat Linuxのインストールを開始しましょう。インストールを開始するには、まずインストールプログラムをブートします。インストールに必要な資源がすべて揃っていることを確認してください。すでに1章 インストールを始める前にを読み終わり、指示にしたがっているならば、開始準備が整っているはずです。

2.2.1 インストールプログラムの起動

注意:

ブートディスクを作成する必要がある場合は、1.1.6 ステップ6 - どのようにインストールを開始しますか?を参照してください。

ブートディスクケットをコンピュータの先頭フロッピードライブに挿入してからリブートします(ご使用のマシンがサポートしている場合はCD-ROMを使用してブートします)。フロッピーまたはCD-ROMからブートするためには、BIOS 設定を変更する必要があるかもしれません。

ヒント

BIOS 設定を変更するためには、コンピュータのブートの初期段階で表示される指示に注意する必要があります。多くの場合、[press the [Del] key to enter the BIOS setting] というテキスト行が表示されます。BIOS 設定モードに入るために必要な操作を行えば、ブート順序を変更することができます。この場合、CD-ROM ドライブまたはフロッピードライブの中でブート可能ソフトウェアが検出されれば、そこからコンピュータをブートすることができます。詳細については、システム付属のマニュアルを参照してください。

可能なブート方法は 4 つあります。

- ブート可能 *CD-ROM* -- マシンがブート可能 CD-ROM をサポートしており、ローカル CD-ROM からインストールを実行したい場合。
- ローカルブートディスク -- マシンがブート可能 CD-ROM をサポートしていない場合で、ローカル CD-ROM またはハードディスクドライブからインストールを実行したい場合。
- ネットワークブートディスク -- NFS、FTP、および HTTP 経由でインストールする場合に使用します。
- *PCMCIA* ブートディスク -- PCMCIA サポートが必要であり、かつマシンが CD-ROM ドライブからのブートをサポートしていない場合、または CD-ROM ドライブを利用するために PCMCIA サポートが必要な場合に使用します。このブートディスクは、すべてのインストール方法 (CD-ROM、ハードディスク、NFS、FTP、および HTTP) を提供します。

しばらくすると、boot: プロンプトを含む画面が表示されるはずです。この画面には、各種のブートオプションに関する情報が含まれています。各ブートオプションには、一つまたは複数のヘルプ画面が関連付けられて

います。ヘルプ画面にアクセスするには、画面下部の行内にリストされたファンクションキーを適宜使用します。

2つのことを覚えておいてください。

- 初期画面が表示されてから一分間、何もアクションを起こさなければ、自動的にインストールプログラムが起動されます。この機能を無効にするには、ヘルプ画面のファンクションキーのいずれかを押しします。
- ヘルプ画面のファンクションキーを押した場合は、フロッピーから情報を読み込むために少し時間がかかります。

通常は、[Enter] を押すだけブートします。ブートメッセージを良く見て、Linux カーネルがハードウェアを検出するかどうかを観察してください。ハードウェアの検出が正しく行われない場合は、「エキスパート」モードでインストールをやり直す必要があります。ハードウェアが正しく検出された場合は、次のセクションに進みます。

エキスパートモードに入るには、以下のブートコマンドを使用します。

```
boot:linux expert
```

注意:

CD-ROMからのGUIインストールを実行したくない場合は、以下のブートコマンドを使用してテキストモードのインストールを実行することもできます。

```
boot:text
```

テキストモードのインストールについての説明は、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』を参照してください。

シリアルインストールを開始するためのコマンドが変更されました。シリアルモードでインストールを実行する必要がある場合は、以下のように入力します。

```
boot:linux console=<device>
```

ここで、<device> は使用するデバイス (ttyS0 または ttyS1 など) です。

注意:

初期段階のブートメッセージには、SCSI または ネットワークカードに関するものは含まれていません。これは正常です。それらのデバイスは、インストールプロセス中にロードされるモジュールによってサポートされるからです。

カーネルにオプションを渡すこともできます。

たとえば、カーネルに対して、128 MB システムのすべての RAM を使用するよう指示するには、以下のように入力します。

```
boot:linux mem=128M
```

オプションを入力してから、[Enter] を押すと、オプションを使用したブートが開始されます。

ハードウェアを識別するためのブートオプションを指定する必要がある場合は、そのオプションを書き留めておいてください。インストールプロセスの LILO 設定部分で必要になります (詳細については「3.6 LILO のインストール」を参照してください。)

フロッピーを使用しないブート方法

ブート可能 CD-ROM をサポートしたコンピュータの場合は、Red Hat Linux/IntelCD-ROM からのブートも可能です。すべてのコンピュータがこの機能をサポートしている訳ではありません。したがって、使用マシンが CD-ROM からのブートをサポートしない場合でも、ブートディスクを使用せずにインストールを開始するもうひとつの方法があります。以下の方法は、Intel ベースのコンピュータ専用です。

システムに MS-DOS がインストールされている場合は、ブートディスクを使用せずに CD-ROM ドライブから直接ブートすることができます。

そのためには (CD-ROM ドライブが d: であるとしします)、以下のコマンドを使用します。

```
C:\>d:  
D:\>cd \dosutils  
D:\dosutils>autoboot.bat
```

この方法は、DOS ウィンドウの中で実行しても動作しません。--autoboot.bat ファイルは、DOS が単独のオペレーティングシステムとして稼動する状況で実行しなければなりません。つまり、Windows が稼動してはいけないということです。

CD-ROM から直接ブートすることができない (かつ DOS ベースの autoboot も利用できない) 場合は、インストールを開始するためにブートディスクを使用する必要があります。

2.3 インストール方法の選択

次に、どのタイプのインストール方法を使用するかを尋ねられます。以下の基本的な手段を使用してRed Hat Linuxをインストールすることができます。

CD-ROM

CD-ROM ドライブおよびRed Hat Linux CD-ROM があること。ブートディスク、ブート可能 CD-ROM または PCMCIA ブートディスクが必要です。

ハードディスクドライブ

Red Hat Linux ファイルをローカルハードディスクドライブにコピーしてある場合。ハードディスクドライブのインストールについての説明は、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』を参照してください。ブートディスクまたは PCMCIA ブートディスクが必要です。

NFS イメージ

Red Hat Linux CD-ROM の内容、またはRed Hat Linuxのミラーイメージをエクスポートする、NFS サーバからインストールする場合。ネットワークブートディスクまたは PCMCIA ブートディスクが必要です。ネットワークインストールについての説明は、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』を参照してください。
注意:NFS インストールを GUI モードで実行することもできます。

FTP

FTP サーバから直接インストールする場合。ネットワークブートディスクまたは PCMCIA ブートディスクが必要です。FTP インストールについての説明は、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』を参照してください。

HTTP

HTTP ウェブサーバから直接インストールする場合。ネットワークブートディスクまたは PCMCIA ブートディスクが必要です。

す。HTTP インストールについての説明は、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』を参照してください。

2.4 インストールの開始

CD-ROM 経由でグラフィカルインタフェースを使用したインストールを行う場合は、先をお読みください。

注意:

テキストモードでインストールを実行したい場合は、システムをリブートし、`boot:` プロンプトに対して、`text` と入力します。その他についての説明は、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』を参照してください。

2.4.1 CD-ROM からのインストール

CD-ROM から Red Hat Linux をインストールするには、[CD-ROM] を選択してから **[OK]** を選択します。指示されたら Red Hat Linux CD を CD-ROM ドライブに挿入します (CD-ROM からブートしていない場合)。次に **[OK]** を選択し、[Enter] を押します。

そうすると、インストールプログラムはシステムを検査して CD-ROM ドライブを識別しようとします。まず IDE (ATAPI ともいわれます) CD-ROM ドライブの検索が行われます。見つかった場合は、インストールプロセスの次の段階に進みます (2.5 言語の選択を参照してください)。

ドライブが検出されない場合は、使用する CD-ROM ドライブのタイプが尋ねられます。以下のタイプから選択してください。

SCSI

CD-ROM が、サポートされる SCSI アダプタと接続している場合は、これを選択してください。そうするとインストールプログラムは SCSI ドライバを選択するように要求します。使用アダプタに最も近

いドライバを選択してください。必要であれば、ドライバに関するオプションを指定することができます。ただし、ほとんどのドライバは SCSI アダプタを自動的に検出します。

その他

CD-ROM ドライブが IDE でも SCSI でもなければ、「その他」になります。このタイプの CD-ROM の例としては、CD-ROM インタフェースをもったサウンドカードがあります。インストールプログラムは、サポートされる CD-ROM ドライブ用のドライバー一覧を表示します。ここでドライバを選択し、必要であればドライバオプションを指定します。

ヒント

CD-ROM ドライブに関するオプションパラメータの部分的な一覧については、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』の付録「一般的なパラメータとモジュール」を参照してください。

IDE CD-ROM が検出されない場合

インストールプログラムが IDE (ATAPI) CD-ROM の検出に失敗した (使用 CD-ROM ドライブのタイプが尋ねられます) 場合は、コンピュータをリスタートし、boot: プロンプトに対して、`linux hdX=cdrom` と入力します。ユニットの接続先インタフェースの種類、およびマスタとスレーブのどちらとして設定されているのかにしたがって、`x` を以下のいずれかの文字と置き換えてください。

- a - 第一 IDE コントローラの、マスタ
 - b - 第一 IDE コントローラの、スレーブ
 - c - 第二 IDE コントローラの、マスタ
 - d - 第二 IDE コントローラの、スレーブ
-

(第三、第四のコントローラがある場合は、単純にコントローラの順番にしたがい、マスタ、スレーブの順序で、アルファベット順に連続した文字を割り当ててください。

入力が済むと、Red Hat LinuxCD を CD-ROM ドライブに挿入するように指示されます。挿入したら **[OK]** を選択します。しばらくすると、次のダイアログボックスが表示されます。

ブートすると、まずインストールプログラムは言語選択画面を表示します。

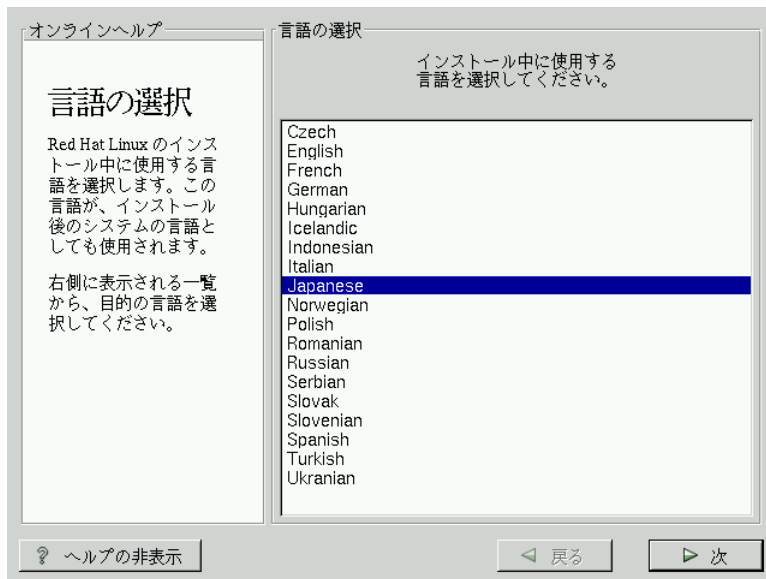
注意:

この段階でインストールプロセスを中止するには、単純にマシンをリブートして、ブートディスクまたは CD-ROM を取り出します。[インストールの準備ができました] 画面が表示されるまでは、いつでも安全にインストールを取り消すことができます。3.13 インストールの準備ができましたを参照してください。

2.5 言語の選択

マウスを使用して、インストール中に使用し、システムのデフォルトとする言語を選択してください(図 2-1 言語の選択を参照してください)。

図 2-1 言語の選択



2.6 キーボードの設定

ご使用のシステムに最も適したモデルを選択してください(図 2-2 キーボードの設定を参照してください)。目的のキーボードが一覧にない場合は、最も近い一般的なタイプを選択してください(例、**Japanese 106-key**)。

次にキーボードのレイアウトを選択します(例：Japanese)。

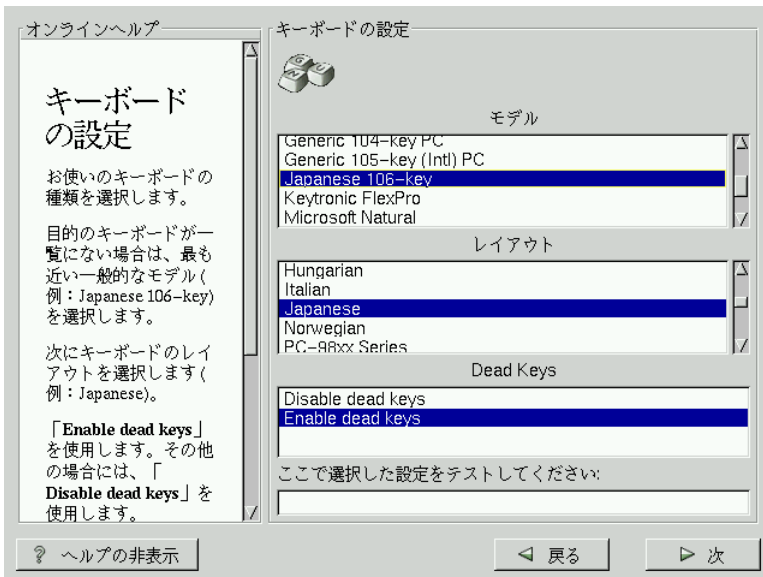
複数回のキー入力を使用して特殊文字(Ñ、Ô、Ç等)を作成するには、dead keys(コンポーズキーシーケンスとも呼ばれます)を使用します。dead keysはデフォルト設定で有効になっています。dead keysを使用しない場合は、**[Disable dead keys]**を選択します。

設定をテストするには、画面下部にある空のテキストフィールドを使用して、テキストを入力してください。

ヒント

インストール後にキーボードタイプを変更するには、**root**としてログインし、`/usr/sbin/kbdconfig` コマンドを使用するか、または **root** プロンプトに対して `setup` と入力します。

図 2-2 キーボードの設定



2.7 マウスの選択

マウスの正確なタイプを選択します。正確に一致するものが見つからない場合は、互換性があると確信できるタイプを選択してください(図 2-3 マウスの選択を参照してください)。

マウスのインターフェースを調べるには、本体と接続している部分までマウスのケーブルをたどります。マウスケーブルの終端にあるコネクタが四角いコネクタと接続しているならば、それはシリアルマウスです。コネクタ

が丸ければ PS/2 マウスです。ラップトップコンピュータに Red Hat Linux をインストールする場合、ほとんどのポインティングデバイスは PS/2 互換になっています。

互換性があると確信できるマウスが見つからない場合は、マウスのボタン数、およびインターフェースに基づいて、**Generic** のエントリ中からいずれかを選択してください。

図 2-3 マウスの選択



PS/2 マウスまたはバスマウスを使用している場合は、ポートとデバイスを選択する必要はありません。シリアルマウスを使用している場合は、シリアルマウスの接続先の正確なポートとデバイスを選択する必要があります。

[3 ボタンマウスのエミュレーションを設定しますか?] チェックボックスを使用すれば、2 ボタンマウスを 3 ボタンマウスのようにして使用することができます。一般に、3 ボタンマウスを使用した場合に、X Windows System が最も使いやすくなります。このチェックボックスを選択した場

合、両方のマウスボタンを同時に押すことによって、3番目の「真ん中」のボタンをエミュレートすることができます。

ヒント

インストール後にマウスの設定を変更するためには、root となってください。そうすると、シェルプロンプトから、`/usr/sbin/mouseconfig` コマンドを使用することができます。

マウスを左利き用として設定するために、マウスボタンの順序をリセットすることができます。そうするには、Red Hat Linux システムをブートした後で、シェルプロンプトから `gpm -B 321` と入力します。

2.8 Red Hat Linux へようこそ

[Red Hat Linux へようこそ] の画面 (図 2-4 *Red Hat Linux へようこそ* を参照) では、インストールについての指示は表示されません。どこでオフィシャル Red Hat Linux 製品を登録するかについての追加の説明や情報については、左側のパネルの中のヘルプテキストを参照してください。

図 2-4 Red Hat Linux へようこそ



画面の左下角に【ヘルプの非表示】ボタンがあることに注意してください。デフォルト設定では、ヘルプ画面が表示されますが、ヘルプ情報を参照したくない場合は、【ヘルプの非表示】をクリックしてヘルプ画面を最小化してください。

【次】ボタンを押してインストールを続行します。

2.9 インストールオプション

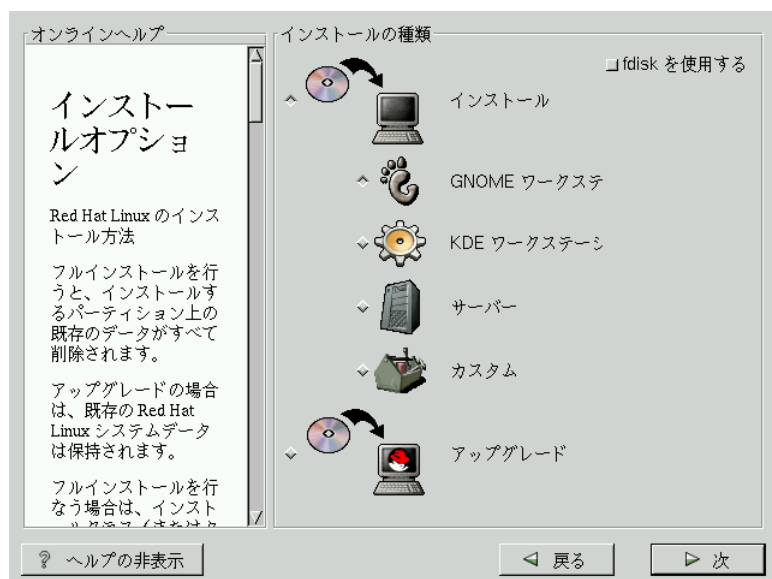
注意:

新機能: Red Hat Linux には、「パーティションレス」インストールという新しいインストール方法があります。システム内に、十分な空き領域を持った FAT (DOS/Windows) パーティションがある場合は、ドライブのパーティションを作り直さずに Red Hat Linux をインストールすることができます。この方法は、Linux の初心者で、マシンに及ぼす影響を最小限にした上で Red Hat Linux を試してみたいというユーザにとっては完璧なものです。この方法の詳細については、付録 B パーティションレスインストールを参照してください。

フルインストールとアップグレードのどちらを実行するのかが選択してください(図 2-5 インストールまたはアップグレードの選択を参照してください)。

[インストールの種類] 画面の右上角には、fdisk を使用してパーティショニングを行いたい場合に選択することのできるボックスがあります。fdisk は Disk Druid ほど直感的に使用できるものではなく、デフォルトでは選択されていないことに注意してください。fdisk を使用したことがない場合は、fdisk と Disk Druid の両方の説明を参照した上で、どちらが適しているのかを判断する必要があります。

図 2-5 インストールまたはアップグレードの選択



完全な GUI インストールを実行する場合は、3章 **Red Hat Linux 6.2J** のインストールに記載された説明を参照してください。

アップグレードを実行する場合は、5章 現行システムのアップグレードを参照してください。

3 Red Hat Linux 6.2J のインストール

本章を終了すると、Red Hat Linux 6.2J のフルインストールが完了します。

アップグレードの実行に関する情報が必要な場合は、5章 現行システムのアップグレードの説明を参照してください。

3.1 インストールの続行

通常は、Red Hat Linux をクリーンなひとつのディスクパーティションまたはいくつかのパーティションのセットにインストールするか、またはインストール済みの別の Linux に上書きインストールします。

警告

インストール済みの Linux (Red Hat Linux を含む) に Red Hat Linux を上書きインストールする場合、以前の情報 (ファイルまたはデータ) は保存されません。重要ファイルは必ず保存しておいてください。既存システムのデータを保存することで悩む (バックアップを作成したくない) 場合は、アップグレードを考える必要があります (5章 現行システムのアップグレードを参照)。

フルインストールを選択する場合にも、インストールのクラスを選択しなければなりません。以下のオプションがあります。GNOME ワークステーション、KDE ワークステーション、サーバまたはカスタム。

新規のユーザに最適なワークステーションクラスのインストールでは、ユーザが選択した GNOME または KDE デスクトップ環境、および X Window System がインストールされます。

警告

ワークステーションクラスのインストールを実行すると、コンピュータのすべてのハードドライブからすべての *Linux* 関連パーティションに含まれるすべての情報が消去されます。

注意:

以前のワークステーションクラスのインストールとは異なり、Red Hat Linux 6.2J ワークステーションクラスのインストールを実行しても、ネットワークデーモン `inetd` はインストールされません。`inetd` がインストールされないため、より安定したインストールが行われます。ただし、`finger`、`telnet`、`talk`、および `FTP` などのネットワーク関連サービスは機能しません。このようなタイプのサービスが必要な場合は、前のステップに戻って、サーバクラスまたはカスタムクラスのインストールを選択してください。

システムを `Linux` ベースのサーバとして機能させたい、かつシステム設定をあまりカスタマイズしたくないというユーザにとっては、サーバクラスが最適なインストール方法です。

警告

サーバクラスのインストールを実行すると、コンピュータのすべてのハードドライブからすべてのパーティション (**Linux** および非 **Linux**) が消去されます。

カスタムクラスのインストール方法を使用すれば、最も柔軟なインストールを行うことができます。ワークステーションおよびサーバクラスのインストールでは、いくつかのステップを省略した自動的なインストールプロセスが実行されます。カスタムクラスのインストールでは、ディスク領域のパーティショニング方法をユーザが決定します。また、システムにインストールするパッケージを自在に選択することができます。さらに、システムの起動時に LILO (Linux LOader) を使うかどうかも指定できます。Linux の使用についてあまり経験がない場合は、カスタムインストールを選択すべきではありません。

カスタムクラスのインストールを実行しなかった場合に、どのステップが省略されるのかを知りたい場合は、1.1.7 セクションごとにカスタムクラスインストールの舞台裏を参照してください。

3.2 fdisk によるパーティショニング



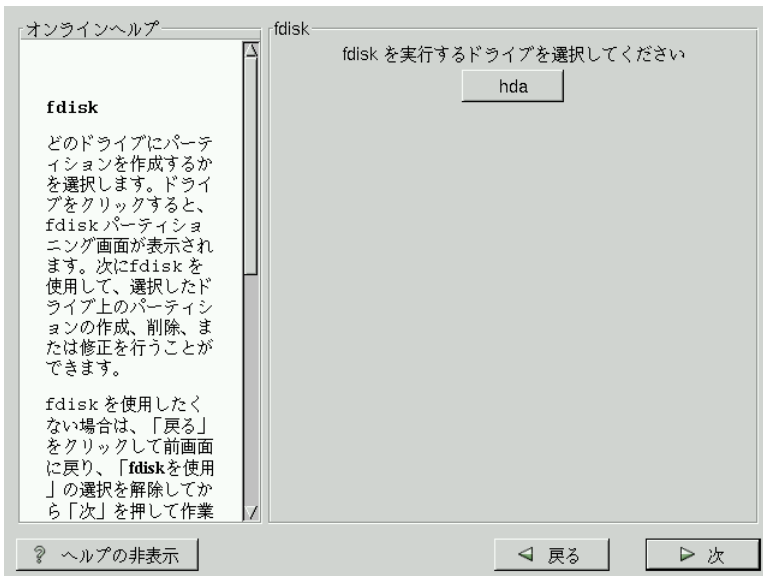
注意

fdisk の使用経験があり、その機能を理解している場合を除き、fdisk の使用はお勧めいたしません。Disk Druid は、初めてパーティショニングを行うユーザーにとって、簡単かつ使いやすいパーティショニングツールです。fdisk を終了するには、**[戻る]** をクリックして前画面に戻り、fdisk の選択を解除してから **[次]** をクリックします。

このセクションは、fdisk を使用してシステムのパーティショニングを行う場合にのみ適用されます。fdisk を使用しない場合は、3.3 パーティション設定を自動的に行うまでスキップしてパーティション設定を自動的に行うか、3.4 システムのパーティション設定までスキップして Disk Druid によってパーティショニングを行います。

fdisk を使用することにした場合は、次の画面 (図 3-1 fdisk を参照) で、fdisk によってパーティショニングするドライブを選択するように指示されます。

図 3-1 fdisk



パーティショニングを行うドライブを選択すると、fdisk コマンド画面が表示されます(「図 3-2 fdisk によるパーティショニング」を参照)。使用するコマンドが不明な場合は、プロンプトに対して [m] と入力してヘルプを参照してください。fdisk の概要については、『*Official Red Hat Linux リファレンスガイド*』を参照してください。パーティションの作成が終了したら、w と入力して変更内容を保存して終了します。そうすると元の fdisk 画面に戻ります。ここで別のドライブのパーティショニングを行うか、インストールを続行するのかが選択することができます。

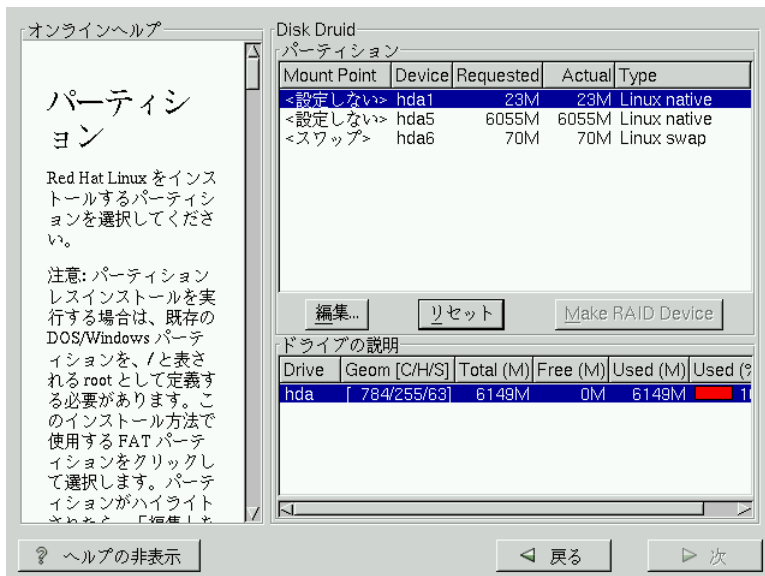
図 3-2 fdisk によるパーティショニング



ドライブのパーティショニングが終了したら、[次] をクリックします。次に、Disk Druid を使用してパーティションにマウントポイントを割り当てます。

Disk Druid によって新しいパーティションを追加することはできませんが、作成済のパーティションの編集を行うことはできます。

図 3-3 Disk Druid による編集



これに続くインストールの説明については、3.5 フォーマットするパーティションの選択までスキップしてください。

3.3 パーティション設定を自動的に行う

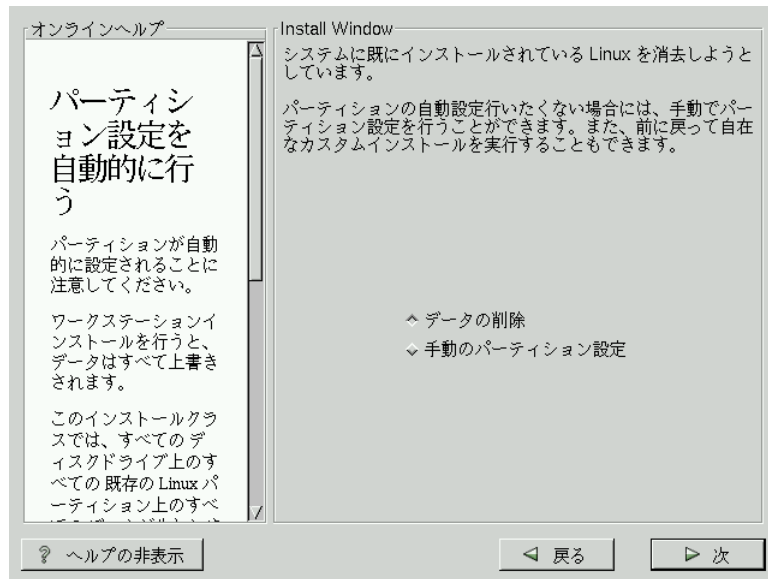
パーティション設定を自動的に行う場合は、自分自身でドライブのパーティショニングを行わずにインストールを実行することができます。システムのパーティション設定が難しいと感じる場合は、手動によるパーティショニングを選択せずに、インストールプログラムに実行させることをお勧めします。

[パーティション設定を自動的に行う] 画面が表示されるのは、ワークステーションクラスまたはサーバクラスのインストールを実行する場合のみです。カスタムクラスのインストールを実行する、または手動によるパーティショニングを選択する場合は、3.4 システムのパーティション設定を参照してください。

この画面では、インストールを続行するか、手動によるパーティショニングを行うか、または [戻る] ボタンによって別のインストール方法を選択するか、のいずれかを選択することができます (図 3-4 パーティション設定を自動的に行うを参照)。

一部または全体の、失いたくないデータがある場合は、手動によるパーティショニングか別のインストールクラスを選択する必要があります。

図 3-4 パーティション設定を自動的に行う



注意

ワークステーションクラスのインストールでは、既存の *Linux* パーティショニング上のすべてのデータが削除されます。

Red Hat Linux をマスタブートレコード (MBR) にインストールしたくない場合、または LILO 以外のブートマネージャを使用したい場合は、このインストール方法を選択しないでください。

注意

サーバクラスのインストールでは、すべてのハードドライブのすべてのパーティショニング上のすべてのデータが削除されます。

すでにインストールされている別の OS をそのまま保持しておきたい場合、Red Hat Linux をマスタブートレコード (MBR) にインストールしたくない場合、または LILO 以外のブートマネージャを使用したい場合は、このインストール方法を選択しないでください。

どのようにパーティショニングを行えば良いのか分からない場合は、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』のパーティショニングに関する章を参照してください。

3.4 システムのパーティション設定

ワークステーションクラスまたはサーバクラスのインストール方法を選択し、かつ手動によるパーティショニングを選択しない場合は、3.7 ネットワークの設定までスキップしてください。

ここで、インストールプログラムに対して、Red Hat Linux のインストール先を指定します。このためには、Red Hat Linux のインストール先とする一つまたは複数のディスクパーティションのマウントポイントを定義します。ここでパーティションの作成や削除を行う必要がある場合もあります(図 3-5 Disk Druid によるパーティショニングを参照してください)。

注意:

パーティショニングの設定方法をまだ計画していない場合は、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』のパーティショニングに関する付録を参照してください。最低限、適当なサイズのルートパーティションと、16 MB 以上のスワップパーティションが必要になります。

図 3-5 Disk Druid によるパーティショニング



Red Hat Linux 6.2J で使用されるパーティショニングツールは、Disk Druid です。難解な状況を除き、Disk Druid は、代表的な Red Hat Linux のインストールに関するパーティショニング要件を処理することができます。

3.4.1 パーティションフィールド

「パーティション」セクションの各行は、ディスクのパーティションを表しています。このセクションの各行は、5つのフィールドを持っています。

[Mount Point]:

マウントポイントとは、ディレクトリ階層における、ボリュームの存在位置のことを言います。ボリュームは、この場所にマウントされる、と表現されます。このフィールドは、パーティションがマウントされる場所を示します。パーティションが存在していて、"not set" である場合は、マウントポイントを定義する必要があります。パーティションをダブルクリックするか、**[編集]** キーを使用してください。

他に理由がない限りは、以下のパーティションを作成することを推奨します。

- スワップパーティション (最低 16 MB) -- スワップパーティションは、仮想メモリをサポートするために使用されます。言い換えると、処理中のデータを保存するために必要なメモリが足りない場合、データはスワップパーティションに書き込まれます。コンピュータのメモリが 16 MB 以下の場合、スワップパーティションを作成しなければなりません。メモリの量がもっと多い場合でも、スワップパーティションの作成を推奨します。スワップパーティションの最低サイズは、コンピュータのメモリと同じ、または 16 MB (の大きい方) です。
- /boot パーティション (16 MB、最大) -- /boot にマウントされるパーティションには、オペレーティングシステムのカーネル (Red Hat Linux のブートを可能にします)、およびブートストラッププロセス中に使用されるファイルが含まれます。ほとんどの PC で

は BIOS に関する制限があるため、小さなパーティションを作成してこれらのファイルを保存しておくのが良いでしょう。このパーティションを 16 MB より大きくすべきではありません。

- root パーティション (700 MB-1.7 GB) -- ここに "/" (ルートディレクトリ) が存在します。このステップでは、すべてのファイル (/boot に格納されるものを除く) はルートパーティション上に存在します。700 MB のルートパーティションがあれば、Workstation クラス相当のインストール (空き領域が非常に少ない場合) が実行可能になります。1.7 GB のルートパーティションがあれば、すべてのパッケージをインストールすることができます。

[Device]:

このフィールドには、パーティションのデバイス名が表示されます。

[Requested]:

このフィールドは、パーティションのオリジナルサイズを表します。サイズを変更したい場合は、そのパーティションをいったん削除し、**[追加]**を選択して作成し直す必要があります。

[Actual]:

このフィールドは、パーティションに対して現在割り当てられている容量を表します。

[Type]:

このフィールドには、パーティションの種類 (Linux Native、DOS など) が表示されます。

3.4.2 パーティションを追加する場合の問題

パーティションを追加しようとしても、Disk Druid が要求を実行できない場合は、その時点で未割当のパーティションと、未割当である理由を含むダイアログボックスが表示されます。未割当のパーティション (群) は、Disk Druid のメイン画面上にも表示されます (「Partition」セクションを参照するためにスクロールする必要があるかもしれません)。

Partitions の画面で設定をしているときに、「要求されたパーティションを作成できません」という赤のメッセージテキストがパーティション名とともに表示される場合があります。未設定のパーティションが存在するというメッセージが表示される主な理由として、そのパーティションの空き領域が少ないことが考えられます。いずれにしても、パーティションについて要求されたマウントポイントの後に、パーティションが割り当てられていない理由が表示されます。

この問題を解決するには、十分な空き領域のあるほかのドライブにパーティションを移すか、パーティションのサイズを現在のドライブに適したサイズに変更するか、そのパーティションを削除する必要があります。変更するには、「編集」を使用するか、パーティションをダブルクリックします。

3.4.3 ドライブ情報

ドライブ情報 セクションの各行は、システムのハードディスクを表しています。各行には次のようなフィールドがあります。

[Drive]:

このフィールドは、ハードディスクのデバイス名を表します。

Geom [C/H/S]:

このフィールドは、ハードディスクのジオメトリを表します。ジオメトリは、ハードディスクから報告された、シリンダ、ヘッド、セクタの番号を表す3つの数字から構成されます。

[Total]:

このフィールドには、ハードディスクドライブの総容量が表示されます。

[Free]:

このフィールドには、まだ割り当てられていないディスク領域の量が表示されます。

[Used]:

このフィールドには、パーティションに割り当てられているハードディスクドライブの領域のサイズがMBとパーセンテージで表示されます。

[ドライブ情報] セクションは、コンピュータのディスク構成を示すためにのみ表示されます。所定のパーティション作成のためにターゲットドライブを指定する手段として使用するものではありません。そのためには 3.4.5 パーティションの追加の **[選択可能なドライブ]** フィールドが使用されます。

3.4.4 Disk Druid のボタン

以下のボタンによって Disk Druid のアクションが制御されます。これらのボタンは、パーティションの追加および削除、パーティション属性の変更のために使用されます。変更内容を受け付けるためのボタン、または Disk Druid を終了するためのボタンもあります。各ボタンを順番に説明します。

[追加]:

新規パーティションの作成を要求するために使用されます。このボタンを選択すると、マウントポイント、サイズなどの必要な情報を入力するためのダイアログボックスが表示されます。

[編集]:

現時点で **[Partition]** セクションで選択されているパーティションの属性を修正するために使用されます。**[編集]** を選択するとダイアログボックスが表示されます。パーティション情報がすでにディスクに書き込まれているかどうかによって、一部またはすべてのフィールドが編集可能になります。

[削除]:

現時点で **[Partition]** セクションでハイライトされているパーティションを削除するために使用されます。本当にパーティションを削除するかどうかの確認を求められます。

[リセット]:



Disk Druid を元の状態に戻すために使用されます。パーティションをリセットすると、すべての変更は失われます。

[RAID デバイスの作成]:

[RAID デバイスの作成] を使用すれば、一部またはすべてのパーティションに冗長性を持たせることができます。*RAID* の使用経験がある場合のみご使用ください。RAID の詳細については、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』を参照してください。

3.4.5 パーティションの追加

新しいパーティションを一つ追加するには、**[追加]** ボタンを選択します。するとダイアログボックスが表示されます (図 3-6 パーティションを一つ追加するを参照)。

注意:

少なくとも一つのパーティションを、またオプションとしてさらにいくつかを Red Hat Linux 専用にする必要があります。このことについては、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』の付録 C で詳しく説明します。

図 3-6 パーティションを一つ追加する



マウントポイント: /

サイズ (メガバイト):

サイズを自動調整する

パーティションタイプ: Linux native

選択可能なドライブ:

- hda

OK キャンセル

- **[マウントポイント]:** ハイライトしてパーティションのマウントポイントを入力します。たとえば、このパーティションをルートパーティションとする場合は、/ と入力します。/boot パーティションとするならば、/boot と入力します。プルダウンメニューを使用してパーティション用のマウントポイントを選択することもできます。
- **[サイズ (MB)]:** パーティションのサイズを (メガバイト単位で) 入力します。このフィールドが、はじめに「1」と入力されていることに注意してください。変更しなければ、パーティションのサイズが 1 MB になってしまいます。
- **[サイズを自動調整する]:** このチェックボックスは、直前のフィールドをパーティションの正確なサイズと見なすのか、または最小サイズと見なすのかを示しています。このボックスをチェックすると、パーティションはハードディスク上の利用可能領域いっぱいまで拡張します。他のパーティションが修正されるにつれて、パーティションのサ

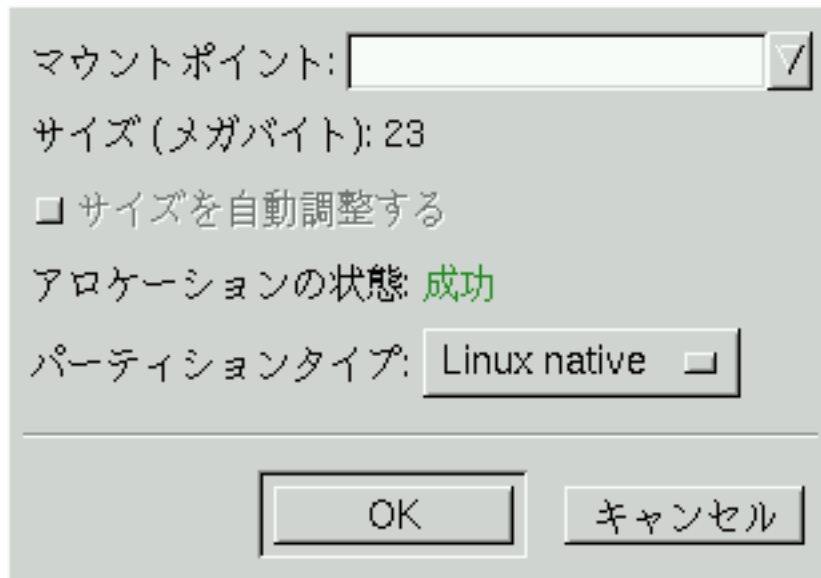
サイズが拡大したり収縮したりします。複数のパーティションを自動サイズ調整するように設定することができます。そのようにした場合、空き領域が追加された場合は、すべての自動サイズ設定パーティションとの間で共有されることになります。

- **[パーティションタイプ]**: このフィールドには、パーティションタイプの一覧が含まれます (Linux Native または DOS など)。マウスで適切なタイプを選択してください。
- **[選択可能なドライブ]**: このフィールドには、システムに組み込まれたハードディスクの一覧が表示されます。ハードディスクのボックスがハイライトされている場合は、そのハードディスク上に目的のパーティションを作成することができます。ボックスがチェックされていない場合は、そのハードディスク上にパーティションを作成することはできません。チェックボックスの設定を変えることで、ユーザが適当と考える方法でパーティションを配置するように Disk Druid に指示したり、Disk Druid に判断させたりすることができます。
- **[OK]**: 設定が正しく完了したら **[OK]** を選択してパーティションを作成します。
- **[キャンセル]**: パーティションを作成したくない場合は、**[キャンセル]** を選択します。

3.4.6 パーティションの編集

パーティションを編集するには、**[編集]** ボタンを選択するか、既存のパーティションをダブルクリックします (図 3-7 パーティションの編集を参照)。

図 3-7 パーティションの編集



注意:

すでにハードディスク上にパーティションが存在する場合は、パーティションのマウントポイントのみを変更することができます。その他の変更を行う場合は、まずそのパーティションを削除し、再度作成する必要があります。

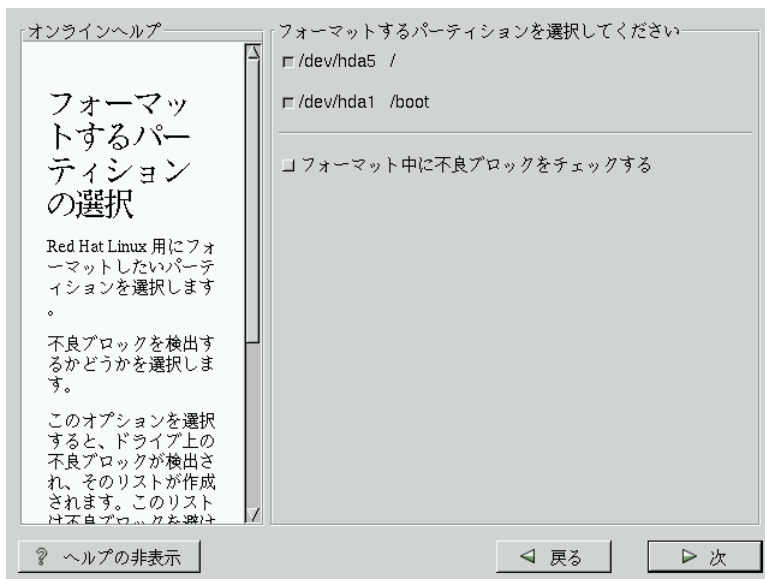
3.4.7 パーティションの削除

パーティションを削除するには、[パーティション] セクションでそのパーティションをハイライトしてから [削除] ボタンをダブルクリックします。本当に削除するかどうかの確認を求められます。

3.5 フォーマットするパーティションの選択

フォーマットしたいパーティションを選択します。新規作成するパーティションは、どれもフォーマットする必要があります。さらに、不要データを含む既存のパーティションもフォーマットする必要があります。ただし、保存したいデータを含んでいる場合は、/home または /usr/local などのパーティションを削除してはなりません(図 3-8 フォーマットするパーティションの選択を参照)。

図 3-8 フォーマットするパーティションの選択



ファイルシステムのフォーマット中に不良ブロックを検査したい場合は、忘れずに【フォーマット中に不良ブロックを検査する】オプションを選択してください。

このオプションを選択すると、ドライブ上の不良ブロックが検出され、そのリストが作成されます。このリストは不良ブロックを避けるための情報として使われ、そのようなブロックにデータの書き込みが行われなくなるので、データの損失を防ぐことができます。

3.6 LILO のインストール

ワークステーションクラスまたはサーバクラスのインストールを実行する場合は、3.8 タイムゾーンの設定までスキップしてください。

Red Hat Linux システムをブートできるようにするためには、通常は LILO (LInux LOader) をインストールする必要があります。以下のいずれかの場所に LILO をインストールすることができます。

マスタブートレコード (MBR)

System Commnader や OS/2 などの他のオペレーティングシステムのローダーによってすでに使用されている場合を除き、ここに LILO をインストールすることを推奨します。ブートマネージャ。マスタブートレコードは、コンピュータの BIOS によって自動的にロードされるハードドライブ上の特別な領域であり、ここに LILO を配置すれば最も早いタイミングでブートプロセスの制御を受け取ることができます。LILO を MBR にインストールした場合、マシンのブート時に LILO によって boot: プロンプトが表示されます。この場合は、Red Hat Linux や LILO で設定した他のオペレーティングシステムをブートすることができます。

ルートパーティションの先頭セクション

すでに別のブートローダ (OS/2 のブートマネージャなど) を使用している場合に推奨します。この場合は、先に他のブートローダに制御が渡されます。この場合は、そのブートローダを設定すれば LILO を起動することができます (その後で Red Hat Linux がブートされます)。

LILO をインストールすることにした場合は、LILO のインストール先を選択してください (図 3-9 *LILO* 設定画面を参照)。システムにインストールされているオペレーティングシステムが Red Hat Linux だけの場合は、マスタブートレコード (MBR) へのインストールを選択してください。Win95/98 の場合は、LILO を MBR にインストールして LILO が両方のオペレーティングシステムをブートできるようにする必要があります。

Windows NT を使用している (かつ LILO をインストールしたい) 場合は、MBR ではなくルートパーティションの先頭セクタに LILO をインストー

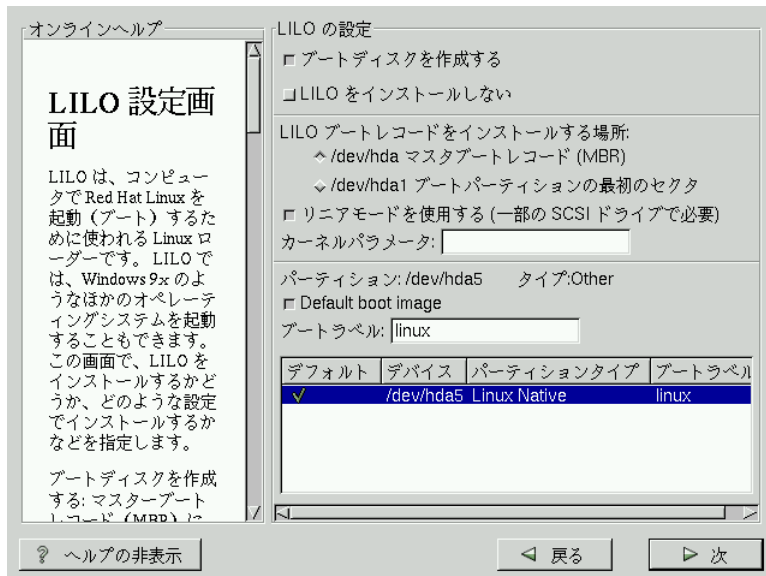
ルする必要があります。忘れずにブートディスクを作成してください。このような場合は、ブートディスクを使用するか、またはNTのシステムローダを設定してLILOがルートパーティションの先頭セクタからブートされるようにする必要があります。LILOおよびNTの設定方法については、<http://www.linuxdoc.org/HOWTO/mini/Linux+NT-Loader.html>をチェックしてください。

注意

何らかの理由のためにLILOをインストールしないことにした場合は、Red Hat Linuxシステムを直接ブートすることができなくなるので、別のブート方法(ブートディスクなど)を使用する必要があります。Red Hat Linuxをブートするための別の方法があると確信できる場合に限って、このオプションを使用してください。

[リニアモードを使う] ボタンはデフォルトで選択されています。ほとんどの場合はリニアモードを有効にすべきです。コンピュータがリニアモードを使用してハードドライブにアクセスすることができない場合は、このオプションの選択を解除してください。

図 3-9 LILO 設定画面



LILO のブートコマンドにデフォルトのオプションを追加したい場合は、[カーネルパラメータ] フィールドにそれらのオプションを入力します。入力したオプションは、ブート時に Linux カーネルに渡されます。

ブート可能パーティション -- ブート可能なすべてのパーティションが表示されます。他のオペレーティングシステムが使用するパーティションも含まれます。Red Hat Linux システムのルートパーティションを含むパーティションの「ブートラベル」列には linux という名前が入ります。その他のパーティションにもブートラベルつけることができます。別パーティションのブートラベルを追加したり、既存のブートラベルを変更したい場合は、パーティションをクリックして選択します。選択したパーティションのブートラベルを変更することができます。

注意:

[ブートラベル] 列には、目的のオペレーティングシステムをブートするために LILO の boot: プロンプトに対して入力すべき値がリストされます。ただし、定義したブートラベルを忘れてしまった場合でも、LILO の boot: プロンプトに対して [Tab] キーを押せば、いつでも定義済のブートラベルの一覧を表示することができます。

3.6.1 LILO の設定

- ブートディスクを作成する -- [ブートディスクを作成する] オプションはデフォルトでチェックされています。ブートディスクを作成したくない場合は、このオプションの選択を解除する必要があります。ただし、ブートディスクの作成を強く推奨します。ブートディスクは役立つ理由はいくつかあります
 - LILO の代わりに使用 -- LILO の代わりにブートディスクを使用することができます。初めて Red Hat Linux を試す場合に便利です。他のオペレーティングシステムのブートプロセスを変更せずに残しておけば安心です。ブートディスクがある場合は、ブートディスクを取り除いてリブートするだけで、簡単に他のオペレーティングシステムに戻ることができます。
 - 他のオペレーティングシステムが LILO を上書きした場合に使用する -- サポートされるブート方法に関する限り、他のオペレーティングシステムは Red Hat Linux ほど柔軟性を持っていません。他のオペレーティングシステムのインストールまたはアップグレードを行うと (本来は LILO を含んでいた) マスタブートレコードが上書きされてしまい、Red Hat Linux がブートできなくなることも良くあります。そのような場合にブートディスクを使用すれば Red Hat Linux をブートできるので、LILO を再インストールすることができます。

- **[LILO をインストールしない]** -- システムに Windows NT をインストールしてある場合は、LILO をインストールしたくないかもしれません。この理由のために LILO をインストールしない場合は、忘れずにブートディスクを作成するように選択してください。そうしないと、Linux をブートすることができなくなります。LILO をドライブ上に書き込みたくない場合は、LILO をインストールしなくてもかまいません。

ヒント

ブートディスクをレスキューモードで使用する場合は、いくつかのオプションがあります。

- CD-ROM を使用してブートするには、boot: プロンプトに対して `linux rescue` と入力します。
- ネットワークブートディスクを使用するには、boot: プロンプトに対して `linux rescue` と入力します。この場合は、ネットワークからレスキューイメージを取得するように指示されます。
- Red Hat Linux ボックスセットに含まれるブートディスクを使用するには、boot: プロンプトに対して `linux rescue` と入力します。次に、インストール方法と、ロード元となる有効なインストールツリーを選択します。

レスキューモードの詳細については、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』の「システム管理」の章を参照してください。

3.6.2 LILO の代替手段

LILO を使用して Red Hat Linux システムをブートしたくない場合は、いくつかの代替手段があります。

ブートディスク

前述のとおり、インストールプログラムが作成するブートディスクを使用することができません (作成するように選択した場合)。

LOADLIN

MS-DOS から Linux をロードすることができます。ただし、そのためには Linux カーネル (SCSI アダプタを使用する場合は初期 RAM ディスクも) をコピーして MS-DOS パーティション上で利用できるようにする必要があります。そのための唯一の方法は、他の方法 (たとえばディスク上の LILO から) によって Red Hat Linux をブートしてからカーネルを MS-DOS パーティションにコピーすることです。LOADLIN は、<ftp://metalab.unc.edu/pub/Linux/system/boot/dualboot/> および関連ミラーサイトから入手可能です。

SYSLINUX

LOADLIN によく似た MS-DOS プログラム。これも、<ftp://metalab.unc.edu/pub/Linux/system/boot/loaders/> および関連ミラーサイトから入手可能です。

商用ブートローダ

たとえば、System Commander および Partition Magic には Linux をブートする機能があります (ただし LILO を Linux のルートパーティションにインストールする必要があります)。

3.6.3 SMP マザーボードと LILO

このセクションは、SMP マザーボードに関してのみの情報です。インストールによって SMP マザーボードが検出された場合は、通常の一つではなく、自動的に 2 つの `lilo.conf` エントリが作成されます。

一方は `linux`、他方は `linux-up` と呼ばれます。デフォルトでは `linux` がブートされます。ただし、SMP カーネルにトラブルがある場合は、代わりに `linux-up` をブートするように選択することができます。すべての機能は、以前のまま保たれますが、一方のプロセッサのみが動作することになります。

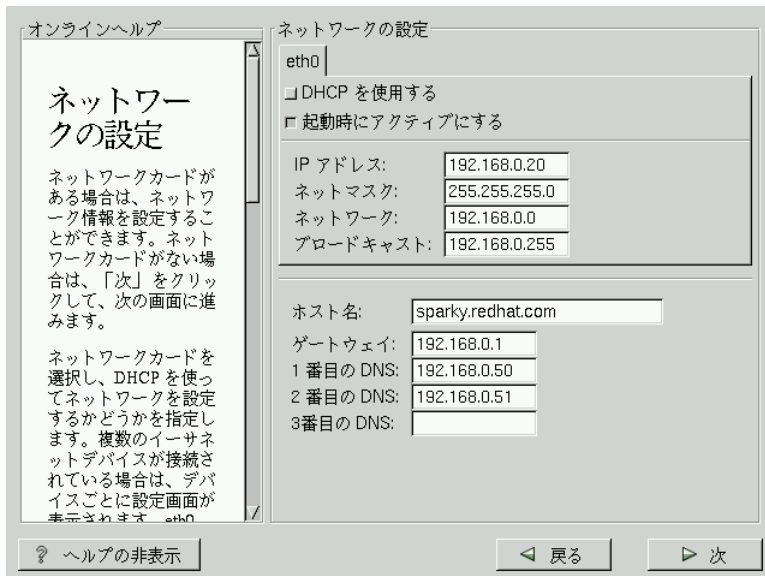
3.7 ネットワークの設定

ネットワークカードを使用する場合に、まだネットワーク情報を設定していない場合は、ここでネットワークを設定することができます (図 3-10 ネットワークの設定を参照)。

デバイスタイプを選択し、DHCP を使ってネットワークを設定するかどうかを指定します。複数のイーサネットカードがある場合、指定した情報は各デバイスごとに保存されます。eth0、eth1といったタブで、デバイス画面を切り換えることができます。指定した情報は、各画面ごとに設定されます。[ブート時にアクティブにする]を選択しておくで、ネットワークカードはブート時に起動されます。DHCP を使用しないかどうか不明な場合は、ネットワーク管理者にご確認ください。

DHCP サーバーを使用しない場合は、「IP アドレス」、「ネットマスク」、「ネットワーク」、「ブロードキャスト」の各アドレスを入力します。これらのアドレスについて不明な部分がある場合は、ネットワーク管理者にご確認ください。

図 3-10 ネットワークの設定



ヒント

コンピュータがネットワークの一部でない場合であっても、システムのホスト名を入力することができます。この機会に名前を入力してください。入力しないと、このシステムは localhost として認識されるようになります。

最後に、Gateway および Primary DNS (および Secondary DNS および Ternary DNS) アドレスを入力します。

3.8 タイムゾーンの設定

タイムゾーンの設定は、コンピュータの物理的位置で設定することも、協定世界時 (UTC) からタイムゾーンのオフセットで指定することもできます。

図 3-11 タイムゾーンの設定



画面の上部には2つのタブがあります(図 3-11 タイムゾーンの設定を参照)。最初のタブは、場所を指定する場合に選択します。このオプションのでは、[表示]を選択することができます。[表示]では以下の表示を選択できます。World, North America, South America, Pacific Rim, Europe, Africa、およびAsia。

表示された地図から、黄色でマークされた都市をクリックすると、選択した都市が赤いXでマークされます。都市の一覧をスクロールして目的のタイムゾーンを選択することも可能です。

2 番目のタブでは、UTC オフセットを使用することができます。UTC はオフセットを選択肢として含む一覧と、夏時間を設定するオプションを提供します。

どちらのタブでも、オプションとして [システムクロックでUTCを使用] を選択できます。システムが UTC に合わせて設定されていることが分かっている場合は、このオプションを選択してください。

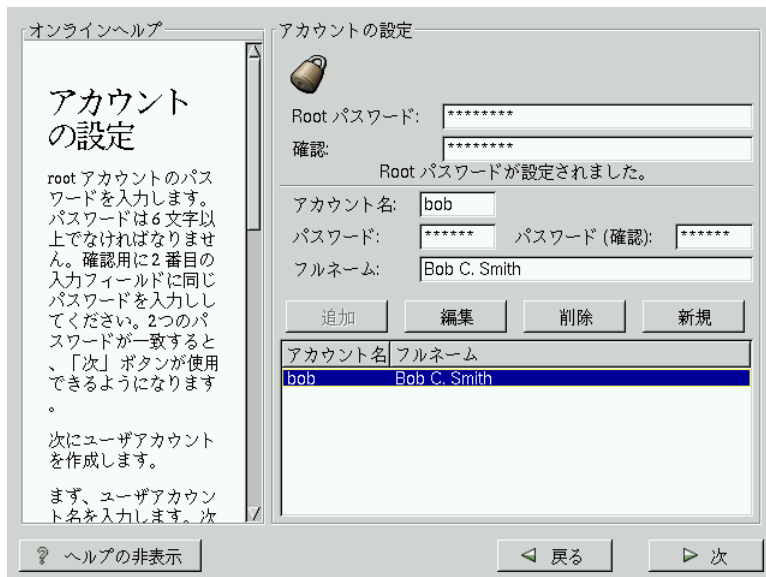
ヒント

Red Hat Linux システムをブートした後でタイムゾーン設定を変更したい場合は、root として /usr/sbin/timeconfig コマンドを使用します。

3.9 アカウンツの設定

[アカウントの設定] 画面を使用して、root のパスワードを設定することができます。さらに、インストールの完了後にログインするためのユーザーアカウントを設定することができます (図 3-12 アカウンツの作成を参照)。

図 3-12 アカウムの作成



3.9.1 root パスワードの設定

インストールプログラムは **root** パスワードを設定するように指示します。

root パスワードの長さは少なくとも 6 文字なければなりません。入力するパスワードは画面表示されません。パスワードを 2 回入力しなければなりません。2 つのパスワードが一致しない場合は、再度入力するように指示されます。

記憶できる root パスワードを選択する必要がありますが、他人が容易に推測できるものであってはなりません。自分の氏名、電話番号、**qwerty**、**password**、**root**、**123456123456**、および **anteater** はみな悪いパスワードの例です。良いパスワードは、数字、大文字、小文字が混じったもので、辞書にある語を含まないものです。たとえば、**Aard387vark** または **420BMttNT** です。パスワードでは大文字/小文字が区別されることを覚えておいてください。このパスワードを書き留めて、安全な場所に保管してください。

注意:

root ユーザ (superuser ともいわれます) は全システムに対する完全なアクセス権限を持ちます。そのため、root ユーザとしてログインするのはシステムの保守または管理を行う場合のみに制限してください。

3.9.2 ユーザアカウントの設定

ここでユーザアカウントを作成すれば、インストールの完了後にそのアカウントによってログインすることができます。そうすることで、他のアカウントを作成するために root になる必要がないので、安全かつ簡単にコンピュータにログインすることができます。

アカウント名を入力します。次に、そのユーザアカウント用のパスワードを入力し、確認します。作成したユーザのフルネームを入力し、[Enter] キーを押します。するとアカウント情報がアカウントリストに追加されてユーザアカウントフィールドがクリアされるので、別のユーザを追加することができます。

[新規] を選択して新しいユーザを追加することもできます。ユーザの情報を入力してから [追加] ボタンを使用して、そのユーザをアカウントリストに追加します。

作成済のユーザを [編集] したり、不要のユーザを [削除] したりすることもできます。

3.10 認証の設定

ワークステーションクラスのインストールを実行する場合は、3.12 GUI X 設定ツールまでスキップしてください。

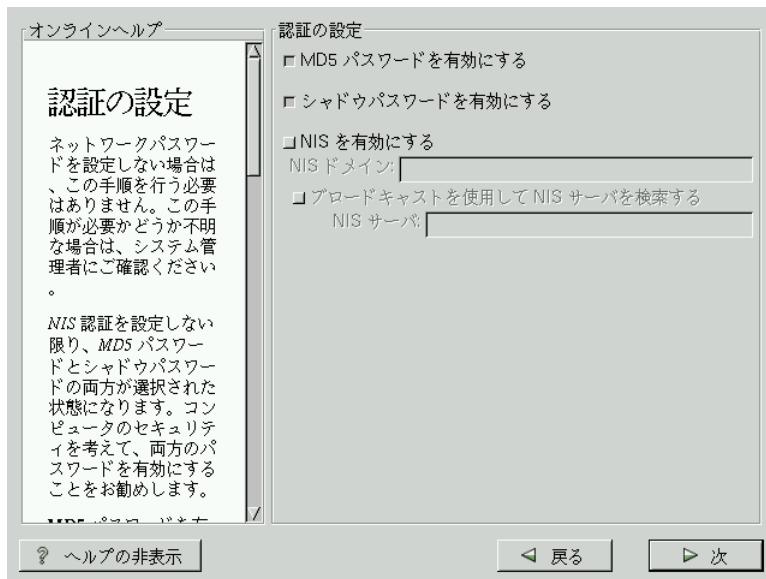
サーバクラスのインストールを実行する場合は、3.13 インストールの準備ができましたまでスキップしてください。

ネットワークパスワードを設定しない場合は、この手順を行う必要はありません。行うべきかどうか不明な場合は、システム管理者にご確認ください。

NIS 認証を設定しない限り、**MD5 パスワード**と**シャドウパスワード**の両方が選択された状態になります(図 3-13 認証の設定を参照)。コンピュータのセキュリティを考えて、両方のパスワードを有効にすることをお勧めします。

NIS オプションを設定するには、コンピュータが NIS ネットワークに接続されている必要があります。NIS ネットワークに接続されているかわからない場合は、システム管理者にご確認ください。

図 3-13 認証の設定



- **MD5 パスワード** - 普通の 8 文字以下のパスワードではなく、256 文字までの長いパスワードをサポートします。

- シャドウパスワード -- パスワードを保存するための安全な手段を提供します。パスワードは、`/etc/shadow`の中に保存されます。このファイルは root しか読み取り権限がありません。
- **NIS** を有効にする -- 同一の NIS (Network Information Service) ドメインに所属する複数のコンピュータがパスワードやグループ情報を共有するしくみです。2つのオプションがあります。
 - **NIS** ドメイン -- このオプションで、コンピュータが所属するドメイン (グループ) を指定します。
 - **NIS** サーバ -- このオプションで、コンピュータのサーバとして特定の NIS サーバを指定できます。このオプションを設定しておくと、LAN にブロードキャストリクエストを送ってホストサーバを探す必要はありません。

3.11 パッケージグループの選択

パーティションの選択とフォーマット用の設定が完了すれば、インストール用パッケージの選択準備が整います。

機能にしたがってパッケージをグループ化したコンポーネント (たとえば、C Development、Networked Workstation、または Web Server)、個別のパッケージ、あるいはその組み合わせを選択することができます。

インストールするグループの横のチェックボックスをマークしてください (図 3-14 パッケージグループの選択を参照してください)。

図 3-14 パッケージグループの選択



インストールするコンポーネントを選択してください。Everything (コンポーネント一覧の末尾にあります) を選択すると、Red Hat Linux に含まれるすべてのパッケージがインストールされます。すべてのパッケージを選択するためには、約 1.7 GB の空きディスク領域が必要になります。

パッケージを個別に選択したい場合は、画面下部にある【個々のパッケージを選択する】オプションを選択します。

3.11.1 個々のパッケージの選択

インストールするコンポーネントを選択した後で、個々のパッケージの選択/選択解除を行うことができます。インストールプログラムによって、グループに含まれるパッケージの一覧が表示されるので、マウスで選択/選択解除することができます (「図 3-15 個々のパッケージの選択」を参照)。

図 3-15 個々のパッケージの選択



画面の左側に、パッケージグループの一覧を含むディレクトリが表示されます。この一覧を展開（ダブルクリックして選択）してからディレクトリを一つダブルクリックすると、インストール可能なパッケージの一覧が右側に表示されます。

パッケージを個別に選択するには、パッケージをダブルクリックするか、一度クリックしてハイライトしてから下にある【インストールするパッケージの選択】をクリックします。すると、インストール用に選択したパッケージ上にチェックマークが表示されます。

選択する前に特定パッケージに関する情報を参照するには、そのパッケージを一回左クリックしてハイライトします。そうすると画面の下部に、情報、パッケージの名前およびサイズが表示されます。

注意:

パッケージの中には、すべての Red Hat Linux システムに必要なため、選択も選択解除もできないものがあります (カーネルおよび一定のライブラリなど) これらの基本パッケージはデフォルトで選択されています。

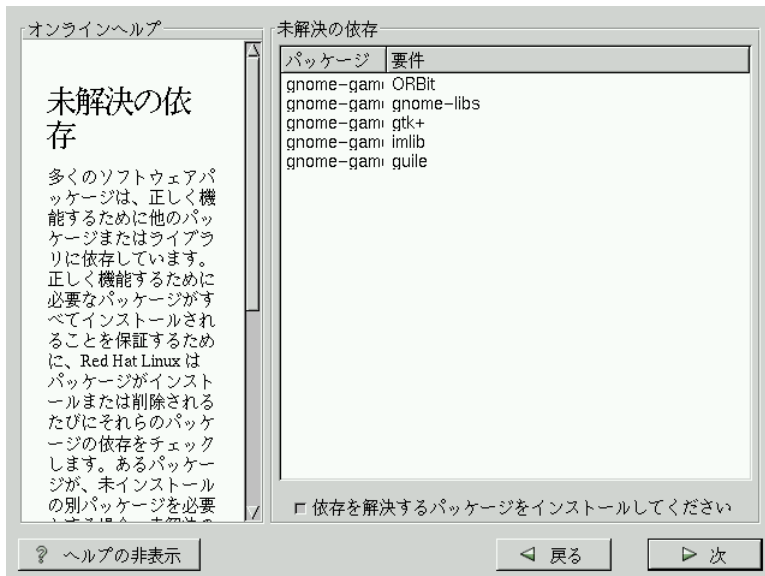
3.11.2 解決されていない依存関係

多くのソフトウェアパッケージは、正しく機能するために他のソフトウェアパッケージに依存するため、それらのパッケージもインストールしなければなりません。たとえば、多くのグラフィカル Red Hat システム管理ツールは、python および pythonlib パッケージを必要とします。正しく機能するために必要なパッケージがすべてインストールされることを保証するために、Red Hat Linux はパッケージがインストールまたは削除されるたびにそれらのパッケージの依存関係をチェックします。

あるパッケージが、選択されていない別のパッケージを必要とする場合には、解決されていない依存関係の一覧が表示されるので、ここで解決することができます (「図 3-16 解決されていない依存関係」を参照)。

【解決されていない依存関係】画面は、選択したパッケージに必要なパッケージが選択されていない場合にのみ表示されます。不足パッケージ一覧の下の画面下部に**【依存関係を満たすようにパッケージをインストールする】**チェックボックスがあり、デフォルトで選択された状態になっています。チェックしたままにしておくと、インストールプログラムは必要パッケージを選択パッケージの一覧に追加することによって、自動的にパッケージの依存関係を解決します。

図 3-16 解決されていない依存関係



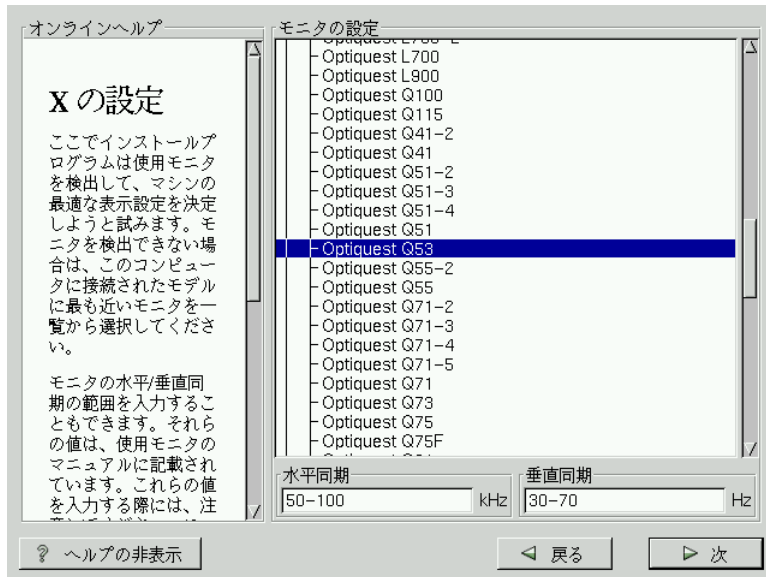
3.12 GUI X 設定ツール

X Window System パッケージをインストールする場合は、ここで X サーバを設定することができます。X Window System パッケージをインストールしない場合は、「3.14 パッケージのインストール」までスキップしてください。

3.12.1 モニタの設定

X Window System の設定ツールである Xconfigurator は、まずモニタの選択肢一覧を表示します。この一覧から、自動検出されたモニタを選択しても、別のモニタを選択してもかまいません。

図 3-17 モニタの選択



使用モニタが一覧内にない場合は、最も適した **Generic** モデルを選択してください。Generic モニタを選択した場合は、Xconfiguratorによって水平同期と垂直同期の範囲が示されます。一般に、それらの値はモニタに付属するマニュアルに記載されています。またはモニタのベンダまたはメーカーから入手することができます。これらの値が正しく設定されていることをマニュアルで確認してください。

注意

使用モニタの能力を超えるものではないと確信できる場合以外は、類似のモニタを選択しないでください。能力を超えたモニタを選択すると、モニタをオーバークロックして破損または破壊することがあります。

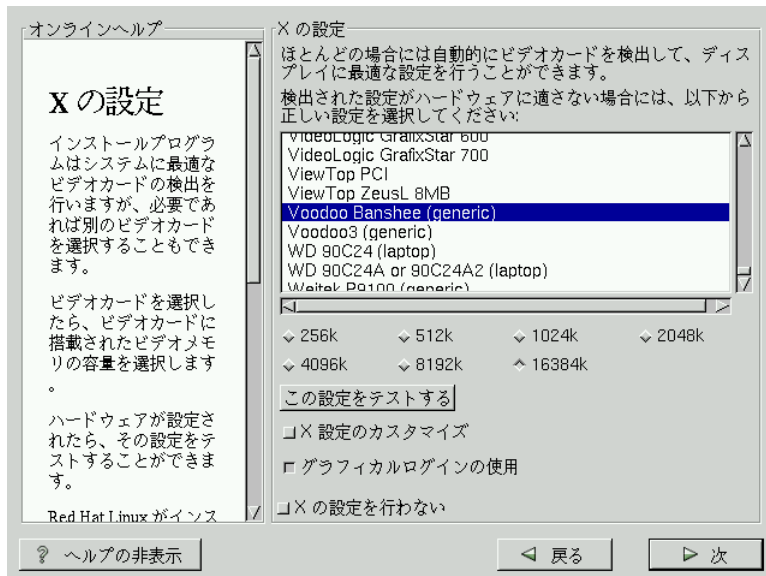
Xconfigurator が推奨する水平同期と垂直同期の範囲も表示されます。
モニタの設定が終了したら、[次] をクリックします。

3.12.2 ビデオハードウェアの設定

次に、Xconfigurator はビデオハードウェアを検証します (「図 3-18 ビデオカードの設定」を参照)。検出に失敗すると、Xconfigurator はビデオカードとモニタの選択肢を含む一覧を表示します。

その一覧の中に使用ビデオカードがない場合は、XFree86 のサポート対象外です。ただし、カードに関する技術的な知識がある場合は、**[Unlisted Card]** を選択して、自分のカードのチップセットと利用可能な X サーバのいずれかを組み合わせることで、設定を試みることができます。

図 3-18 ビデオカードの設定

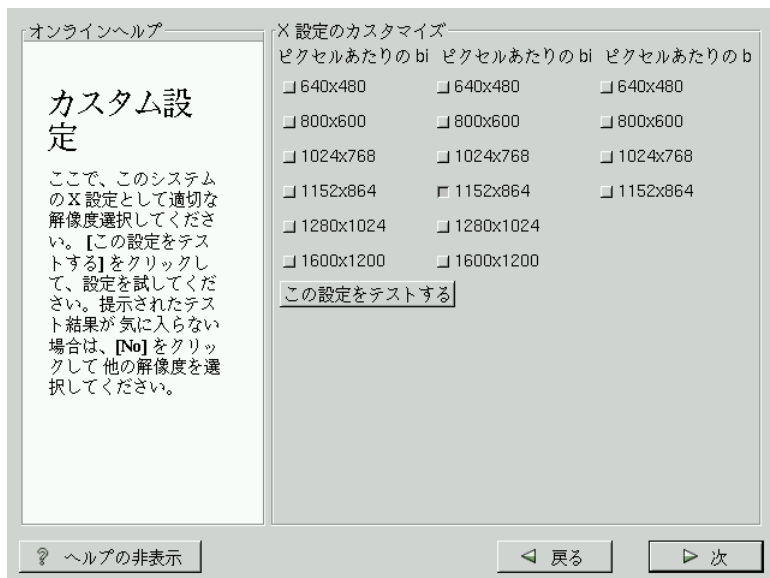


次に、Xconfigurator はビデオカードに搭載されたビデオメモリの量を入力するように指示します。分からない場合は、ビデオカードに付属のマニュアルを参照してください。実際よりも多いメモリを選択してもビデオカードを破損することはありませんが、XFree86 サーバが正しく機能されない可能性があります。

ハードウェアが決まったら、設定をテストすることができます。目的の解像度と色を確認するためにも、設定をテストすることを推奨します。

Xの設定をカスタマイズしたい場合は、**[X設定のカスタマイズ]** ボタンが選択されていることを確認してください。カスタマイズする場合は、別の画面が表示されるので、そこで解像度を選択します（「図 3-19 Xのカスタマイズ」を参照してください）。ここでも再び、設定をテストするというオプションがあります。

図 3-19 X のカスタマイズ



X の設定を行わない場合や、インストール後に X の設定を行う場合は、**[X の設定を行わない]** を選択します。

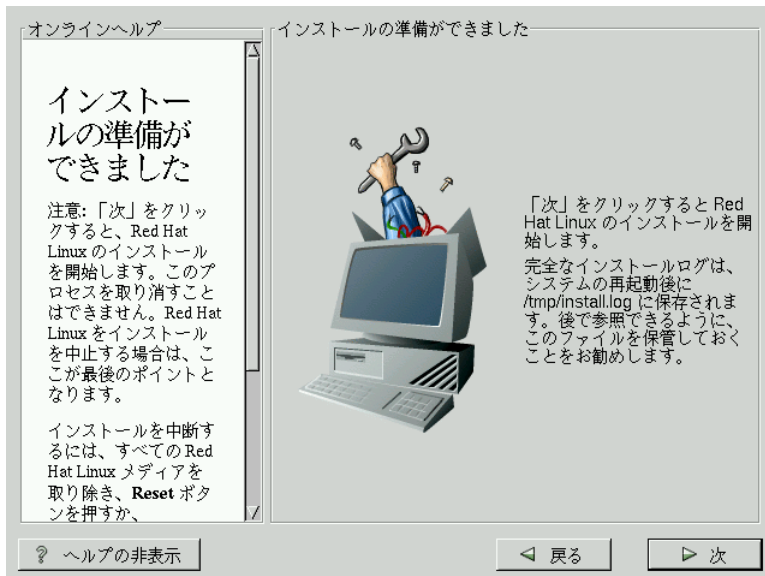
3.13 インストールの準備ができました

Red Hat Linux の「インストールの準備ができました」という画面が表示されます (「図 3-20 インストール準備完了」を参照してください)。

警告

何らかの理由のためにインストールプロセスを続行しない場合は、これが安全にプロセスを取り消してマシンをリブートする最後のチャンスです。[次] ボタンを押すと、パーティションの書き込みとパッケージのインストールが開始されます。インストールを中止する場合は、ハードドライブへの書き込みが始まる前に、リブートする必要があります。

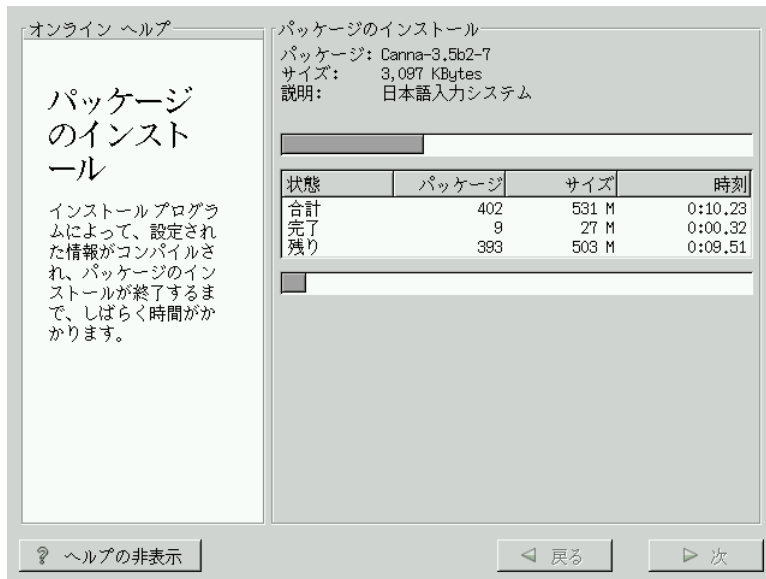
図 3-20 インストール準備完了



3.14 パッケージのインストール

すべてのパッケージのインストールが完了するまで、何もすることはありません(「図 3-21 パッケージのインストール」を参照してください)。終了するまでの時間は、選択したパッケージの数とコンピュータの速度によって異なります。

図 3-21 パッケージのインストール



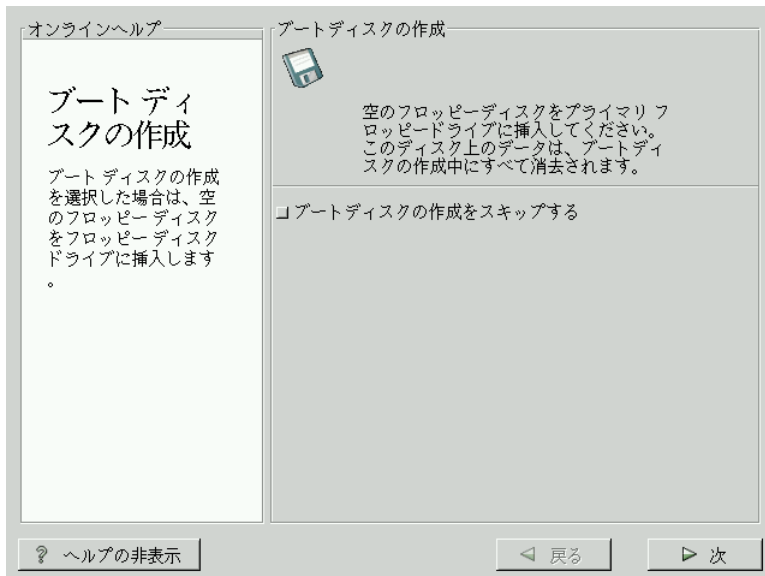
3.15 ブートディスクの作成

ブートディスクを作成することにした場合は、ここで空のフォーマット済ディスクレットをフロッピードライブに挿入する必要があります(「図 3-22 ブートディスクの作成中」を参照してください)。

少し時間をおいて、ブートディスクが作成されます。作成されたらディスクをフロッピードライブから取り出して、明確なラベルを貼り付けてください。インストール後にブートディスクを作成することも可能であることに注意してください。詳細については、man ページの `mkbootdisk` を参照してください。そのためには、シェルプロンプトから `man mkbootdisk` と入力します。

ブートディスク (LILO ではなく) を使用してシステムをブートする場合は、カーネルに変更を加えた場合は、忘れずに新しいブートディスクを作成してください。

図 3-22 ブートディスクの作成中



3.16 インストール完了

Red Hat Linux 6.2J のインストールが完了しました。

インストールプログラムによって、システムをリブートする準備をするように指示されます(「図 3-23 インストール完了」を参照してください)。フロッピードライブの中のディスクや CD-ROM ドライブの中の CD を忘れずに取り出してください。LILO をインストールしなかった場合は、ここでブートディスクを使用する必要があります。

コンピュータの通常のブートプロセスが完了すると、以下のような LILO の標準プロンプトが表示されるはずです。boot: プロンプトに対して、以下のことを行うことができます。

- [Enter] キー -- LILO のデフォルトブートエントリがブートされます。

- ブートラベルの後に [Enter] -- LILO はブートラベルと対応するオペレーティングシステムをブートします。有効なブートラベルの一覧を参照するには、boot: に対して [?] と入力します。)
- 何もしない -- LILO のタイムアウト時間が経過すると、(デフォルトでは 5 秒) LILO は自動的にデフォルトのブートエントリをブートします。

図 3-23 インストール完了



適当な方法によって Red Hat Linux をブートしてください。メッセージを含む一つまたは複数の画面が表示され、スクロールして行くはずですが、最終的に、login: プロンプトまたは GUI ログイン画面が表示されます (X Window System をインストールし、X を自動的に起動するように設定した場合)。

ヒント

システムの設定または管理に関するトピックが必要な、経験をつんだユーザには、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』が役に立ちます。

4 Red Hat Linux 6.2J の新機能

本章では、Red Hat Linux 6.2J の新機能であるグラフィカルインストールプロセスについて説明します。インストールと関連しない新機能については、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』を参照してください。

4.1 インストール関連の機能拡張

インストールを簡単にするための Red Hat Linux 6.2J に対する改良点は、以下機能です。

パーティションレスインストール

この新しいインストールタイプを使用すれば、Linux 用パーティションの作成で悩むことなく、既存のフォーマット済 DOS (FAT) ファイルシステムを使用して、現在のシステム上に Red Hat Linux 6.2J をインストールすることができます。このインストールプロセスの詳細については、付録 B パーティションレスインストールを参照してください。

X の設定の改良

インストール中の X Window System の設定機能が、これまでになく徹底されました。モニタの選択とその正しい設定から、ビデオカードの検出、X 設定のテストにいたるまで、Xconfigurator がすべてを正しく設定するためのお手伝いをします。

GUI パーティショニングツールの追加

以前はエキスパートモードでしか利用できなかった fdisk が GUI インストールにも追加されました。ユーザのスキルのレベルと個人的な好みにしたがって、Disk Druid と fdisk のどちらを使用してパーティショニングを行うのかを選択できるようになりました。

レスキューディスク機能の改良

新しく追加、改良されたオプションにより、以前よりもレスキューディスク機能が強力になっています。改良点としては、mtools およ

び RAID ツール、および新しいデフォルトエディタとしての pico があります。

Kickstart インストールにおけるソフトウェア RAID 設定

kickstart インストールの新機能は、RAID を設定できることです。

RAID アップグレード

インストールプログラムの新機能は、RAID をアップグレードできることです。

ATAPI Zip ドライブの認識

インストールプログラムは ATAPI Zip ドライブを認識して、自動的に SCSI エミュレーションを使用するように設定できるようになりました。インストール後に ATAPI Zip ドライブを追加した場合は、システムをリブートした後でハードウェア認識プログラム kudzu がドライブを認識することになります。インストールプログラムは、Jaz ドライブ用のデバイスファイルも作成します。

5 現行システムのアップグレード

本章では、Red Hat Linux 6.2J のアップグレードを行う際のステップについて説明します。

5.1 アップグレードとは

Red Hat Linux 6.2J のインストールプロセスの中には、RPM テクノロジーに基づく、以前のバージョンの Red Hat Linux (バージョン 2.0 以降) のアップグレード機能が含まれています。

システムをアップグレードすると、モジュール式の 2.2.x カーネルと、現在マシン上にインストールされているパッケージのアップデートバージョンがインストールされます。アップグレードプロセスを実行した場合、既存の設定ファイルには `.rpm_save` という拡張子が付けられた上で保存され (たとえば、`sendmail.cf.rpm_save`)、実行されたアクションのログが `/tmp/upgrade.log` に残されます。ソフトウェアが進化するにつれて、設定ファイルのフォーマットが変化することもあるので、変更内容を組み込む前に、元の設定ファイルと新しいファイルを注意深く比較する必要があります。

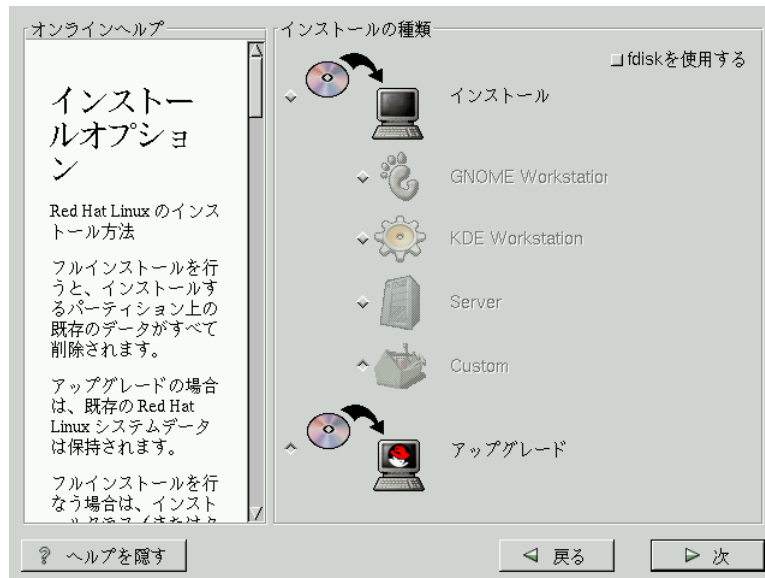
注意:

アップグレードパッケージの中には、正しく動作するために他のパッケージをもインストールする必要があるものもあります。アップグレードするパッケージをカスタマイズすることにした場合は、依存関係の問題を解決する必要があるかもしれません。アップグレードするパッケージをカスタマイズしない場合は、アップグレードプロセスがそれらの依存関係の問題を処理します。ただし、システム上に存在しないパッケージを追加インストールする必要があるかもしれません。

5.2 システムのアップグレード

ここで、インストールタイプとして[アップグレード]が選択されていなければなりません。(図 5-1 アップグレードの選択 を参照)。

図 5-1 アップグレードの選択



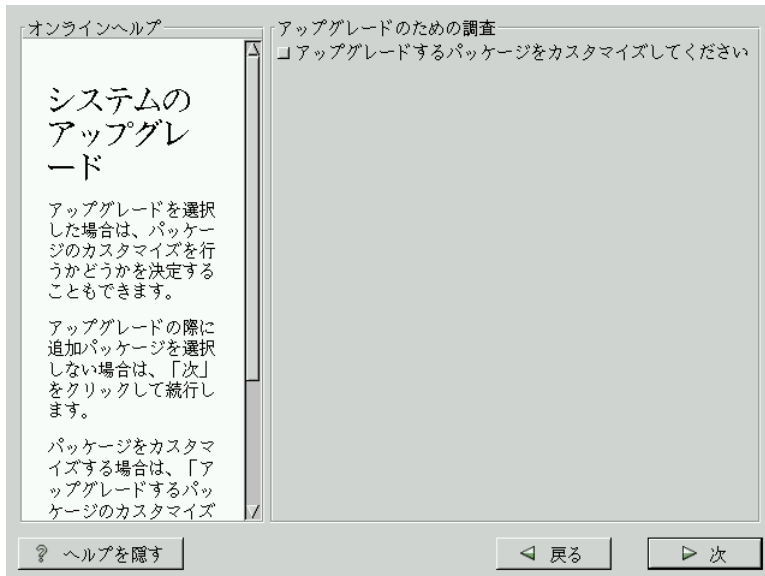
5.3 アップグレードのカスタマイズ

次に、システムのアップグレードをインストールプログラムに実行させるのか、またはアップグレードするパッケージを自分でカスタマイズするのかを選択します。(図 5-2 アップグレードのカスタマイズを参照してください)。

[アップグレードするパッケージをカスタマイズする] ボタンを選択せずに [次] をクリックすると、自動的にアップグレードプロセスが開始されます (5.5 パッケージのアップグレード を参照してください)。

アップグレードパッケージをカスタマイズしたい場合は、このオプションを選択してから [次] をクリックします。

図 5-2 アップグレードのカスタマイズ



5.4 アップグレードするパッケージの選択

ここでは、アップグレードしたいパッケージを選択することができます (図 5-3 個々のパッケージ選択を参照してください)。

画面の左側に、パッケージグループの一覧を含むディレクトリが表示されます。この一覧を展開 (ダブルクリックして選択) してからディレクトリを一つダブルクリックすると、インストール可能なパッケージの一覧が右側に表示されます。

個々のパッケージを選択するには、パッケージをダブルクリックするか、一度クリックしてハイライトしてから下にある「インストールするパッケージの選択」をクリックします。すると、インストール用に選択したパッケージ上にチェックマークが表示されます。

インストールの選択を行う前に特定パッケージに関する情報を参照するには、そのパッケージを一回左クリックしてハイライトします。そうすると画面の下部に、情報、パッケージの名前およびサイズが表示されます。

注意:

パッケージの中には、すべての Red Hat Linux システムに必要なために選択も選択解除もできないものがあります (カーネルおよび一定のライブラリなど) これらの基本パッケージはデフォルトで選択されています。

図 5-3 個々のパッケージ選択

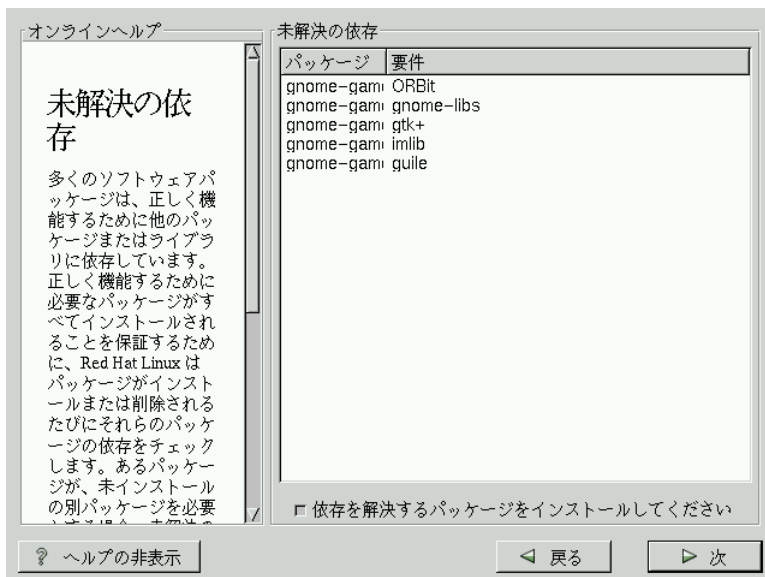


5.4.1 解決されていない依存関係

あるパッケージが、選択されていない別のパッケージを必要とする場合には、解決されていない依存関係の一覧が表示されるので、ここで解決することができます(図 5-4 解決されていない依存関係を参照)。

【解決されていない依存関係】画面は、カスタマイズしたパッケージ選択に必要なパッケージが選択されていない場合にのみ表示されます。不足パッケージ一覧の下の画面下部に【依存関係を満たすようにパッケージをインストールする】チェックボックスがあり、デフォルトで選択された状態になっています。チェックしたままにしておくと、インストールプログラムはすべての必要なパッケージを選択したパッケージの一覧に追加することによって、自動的にパッケージの依存関係を解決します。

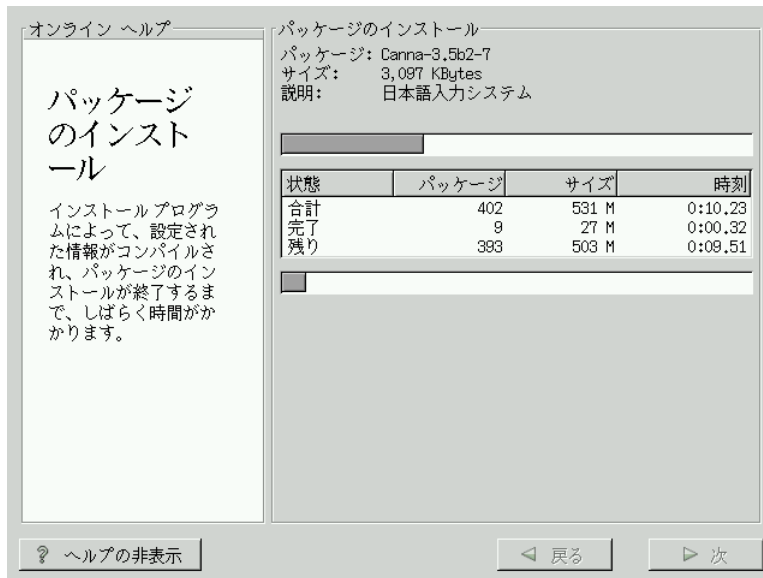
図 5-4 解決されていない依存関係



5.5 パッケージのアップグレード

ここでは、すべてのパッケージのアップグレードまたはインストールが完了するまで、何もすることはありません(図 5-5 パッケージのインストールを参照してください)。

図 5-5 パッケージのインストール



5.6 アップグレード完了

Red Hat Linux 6.2J のアップグレードが完了しました。

システムをリブートする準備をしてください。フロッピードライブの中のディスクや CD-ROM ドライブの中の CD を忘れずに取り出してください。LILO をインストールしなかった場合は、ここでブートディスクを使用する必要があります。

ヒント

システム設定およびシステム管理に関する情報については、『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』を参照してください。

図 5-6 アップグレード完了



A テクニカルサポートのご利用方法

A.1 ユーザー登録をお忘れなく

Official Edition の Red Hat Linux 6.2J をお持ちの場合は、忘れずに登録をして、Red Hat の登録ユーザとしての特典をご利用ください。

購入された Official Red Hat Linux 製品の種類にしたがって、以下の特典のいくつか、またはすべてをご利用いただけます。

- オフィシャル Red Hat サポート -- インストール時の疑問について、Red Hat, Inc. のサポートチームからのサポートが受けられます。
- 優先 FTP アクセス混み合った FTP サイトに、夜遅くアクセスする必要はもうありません。Red Hat Linux 6.2J の登録ユーザには、Red Hat の FTP サービスであるプライオリティ FTP への無償の優先アクセス権が与えられます。昼夜を問わず、高バンド幅接続を提供します。
- Red Hat アップデートエージェント -- アップデートされた RPM が公開されると、すぐに Red Hat から電子メールで通知されます。アップデートエージェントフィルタを使用すれば、興味のあるサブジェクトに関する通知のみを受け取ることができます。
- "Under the Brim": オフィシャル Red Hat E-ニュースレター -- 毎月、最新のニュースと製品情報が直接 Red Hat から送信されます。

ユーザー登録は、<http://www.redhat.com/apps/user/join> にアクセスしてください。Official Red Hat Linux ボックスに含まれる白と赤のカードには **Personal Product ID** が記載されています。

A.2 Red Hat サポートの概要

Red Hat は Official Red Hat Linux ボックスセットに関するインストールの支援を行ない、単一コンピュータへのインストールについて対応いたします。その目的は、お客様が Red Hat Linux を正しくインストールできるように支援することです。インストールについての支援は電話または電子メールで行います。

Red Hat サポートは、インストールプロセスを開始する前のお客様の質問にお答えするものです。以下のことがらが含まれます。

- ハードウェア互換性に関する質問
- ハードドライブの基本的なパーティションの作成法

Red Hat, Inc. サポートは、インストールプロセス中のサポートも行います。

- Red Hat Linux オペレーティングシステムによって認識される、サポート対象ハードウェアの入手方法
- ドライブのパーティショニングの支援
- Red Hat Linux と、その他一つまでのオペレーティングシステム (Intel プラットフォームのみ) を、Linux のブートローダ LILO を使用してデュアルブートできるようにする設定の方法。サードパーティのブートローダ、およびパーティショニングソフトウェアはサポートされないことに注意してください。

以下のようなインストール後の基本的な作業も支援します。

- XF86Setup または Xconfigurator を使用して X Window System を正しく設定する方法
- テキストを印刷するためのローカルパラレルポートプリンタを設定する方法
- マウスの設定

弊社のインストール支援サービスは、お客様が可能な限り速く、簡単に Red Hat Linux を実行できるようにすることを目的とします。しかし、ここでは対応していない作業で、お客様が Red Hat Linux システムによって行いたいこと (カスタムカーネルのコンパイルから Web サーバのセットアップまで) が他にもたくさんあるかもしれません。

そのような作業については、HOWTO 文書、Linux 関連 Web サイトという形式のオンライン情報、および商用の書籍がご利用になれます。Red Hat Linux オペレーティングシステムのインストール CD の /doc/HOWTO ディレクトリには、Red Hat Linux およびその他のオペレーティングシステム

から簡単に参照できるテキストファイルとして、各種の Linux HOWTO 文書が含まれています。

多数の Linux 関連 Web サイトが公開されています。Red Hat Linux に関する情報を検索するためのスタートページとして最適なものは、以下のレッドハット株式会社 Web サイトです。

<http://www.redhat.com/jp/>

多数の Linux 関連書籍が発行されています。Linux は初めてというお客様にとって、Linux の基本を扱った書籍はとても貴重です。

Red Hat は事例ベースのサポート方式も提供し、インストール支援ではカバーされない設定問題および作業を支援します。詳細については、Red Hat サポート Web サイトにアクセスしてください。Red Hat テクニカルサポート Web サイトの URL は以下のとおりです。

<http://www.redhat.com/support/>

A.3 Red Hat サポートの範囲

レッドハット株式会社は、Official Red Hat Linux ボックスセットを購入されたお客様に対してのみインストールの支援を行います。

以下の手段によって Red Hat Linux を入手された方は、Red Hat によるサポートの対象とはなりません。

- Red Hat Linux PowerTools Archive
- インターネットの FTP 経由でのダウンロードしたもの
- Motif または Applixware などのパッケージに付属のもの
- 他のユーザの CD からコピー、またはインストールしたもの

A.4 Red Hat サポートシステム

1999 年 10 月以降、Red Hat, Inc. は新しいテクニカルサポートシステムを実現しています。過去に Red Hat のテクニカルサポートを受けるために登録を行ったことがある場合は、再度登録する必要があるかもしれません。新しいシステムでは、ログインとパスワードが統合され、全 Red Hat Web

サイトにわたって通用するようになります。また、サポートシステムは、要求されたサービスを自動的に送信し、情報を探し出しすることができるようになります。

まだの場合は、ぜひユーザー登録をしてください。ユーザー登録の方法については、次の A.5 テクニカルサポートのご利用方法「第 A.5 セクション テクニカルサポートのご利用方法」で説明します。

A.5 テクニカルサポートのご利用方法

Official Red Hat 製品に関するテクニカルサポートを受けるには、まず登録を行う必要があります。

すべてのオフィシャル Red Hat 製品には、Personal Product Identification コードが付属します。16 文字の英数文字列です。Red Hat Linux 6.2J の Personal Product ID は、ボックスに含まれる白と赤のカードに記載されています。Personal Product ID はミシン目の入ったカードに記載されているため、切り取って安全な場所に保管することができます。このコードが必要となりますので、カードをなくさないでください。

注意:

Personal Product ID が記載されたカードをなくさないでください。テクニカルサポートを受けるためには、Personal Product ID が必要です。証明書を紛失すると、サポートを受けることができなくなります。

Personal Product ID は、お客様が購入された Red Hat 製品の種類にしたがって、テクニカルサポートおよびその他の Red Hat による特典またはサービスを受けていただくためのコードです。Personal Product ID を使用すれば、購入された製品の種類にしたがって、一定の期間、優先 FTP アクセスを行うこともできます。

A.5.1 テクニカルサポートのためのユーザー登録

以下のことを行う必要があります。

1. 以下のサイトでお客様のプロフィールを作成してください。
<http://www.redhat.com/apps/user/join/>. もしこのステップを既に完了されている場合は、次のステップに進んでください。Red Hat Web サイトでまだお客様プロフィールを作成されていない場合は、新規作成してください。
2. 登録したユーザ名とパスワードを使用して、以下の Red Hat サポート Web サイトにログインしてください。<http://www.redhat.com/support>.
3. 必要に応じてお客様のコンタクト情報を更新してください。

注意:

電子メールアドレスが間違っていると、テクニカルサポート依頼についての回答のご連絡がお客様のもとに届きません。このためお客様のログインおよびパスワードの情報を電子メールで受け取ることができなくなります。電子メールアドレスが正しいことをご確認ください。

プライバシーについてご心配の場合は、以下の Red Hat のプライバシーに関するステートメントをご覧ください。http://www.redhat.com/legal/privacy_statement.html.

4. お客様プロフィールへ製品を追加される場合以下の情報を入力してください。
 - ボックスセット製品の Personal Product ID
 - Red Hat Linux 製品をインストールするハードウェアに関する情報
 - 契約を購入された場合は、Support Certificate Number または Entitlement Number
 5. お客様の好みを設定してください。
 6. アンケートにご協力ください。
 7. フォームを送信してください。
-

上記のステップが正しく完了すると、以下のサイト <http://www.redhat.com/support> にログインして、テクニカルサポートの依頼を行うことができますようになります。ただし、電話によるテクニカルサポートを受ける場合は、Personal Product ID が必要になります (購入された製品が電話によるサポートにも対応している場合)。Personal Product ID を紛失するとサポートを受けることができなくなりますので、無くさないでください。

A.6 テクニカルサポートに関する疑問

テクニカルサポートは、科学的に行うものでもありますが、非科学的に行うものでもあります。ほとんどの場合、サポート技術者は問題を解決するために、お客様からのご説明やお客様との会話を信頼しなければなりません。したがって、疑問や障害を報告される際には、可能な限り詳細かつ明確にお話をされることが特に重要です。以下にご報告いただきたい事項の例を示します。

- 問題の現象 (例: 「Linux から CD-ROM ドライブにアクセスできません。アクセスしようとする、タイムアウトエラーが発生します。」)
- 障害が発生した時期 (例: 「昨日、付近で雷雨が発生するまでは正常に動いていました。」)
- システムに対する変更内容 (例: 「新しくハードドライブを追加して、「Partition Wizzo」を使って Linux パーティションを追加しました。」)
- その他の、インストール方法 (CD-ROM、NFX、HTTP) など、問題の状況に関連すると思われる情報。

A.6.1 サポートへのご質問の依頼方法

install-jp@redhat.com に電子メールで質問を送信するか、サポートまで電話をおかけください。購入された製品が電話によるサポートに対応している場合、あるいは電話サポート契約を購入された場合は、登録のプロセス中に必要な電話番号が通知されます。

B パーティションレスインストール

本章では、システム上に Linux パーティションを作成せずに Red Hat Linux 6.2J をインストールする方法を説明します。

注意

これは、システム上に Linux パーティションを追加せずに Red Hat Linux の世界を探検してみるための優れた方法ですが、本マニュアルで説明するように、Red Hat Linux をフルインストールする必要があることに変わりはありませんので注意してください。

注意:

このタイプのインストールを実行するためには、すでにフォーマット済の *DOS (FAT)* ファイルシステムがなければなりません。Win95/98 を使用しているユーザは、このタイプのインストールを行うのに問題ないはずです。NTFS パーティション (Windows NT を使用している場合など) の場合は、インストールを実行する前に *DOS (FAT)* ファイルシステムを作成してフォーマットする必要があります。Red Hat Linux のインストールを開始する前に *DOS (FAT)* ファイルシステムがフォーマットされていなければ、このインストールは正しく機能しません。

B.1 パーティションレスインストールの長所と短所

パーティションレスインストールを選択するには理由があることと思いますが、(見方にもよりますが)欠点もまたいくつかあります。

ここでは、インストール中、およびこのタイプのインストールの結果として生じる基本的なこと、およびシステムに及ぶ影響について記述します。

基本インストール

これから Red Hat Linux の基本インストールを実行します。ただし、Linux パーティションをシステムに追加するのではなく、(十分な空き領域を持った) 既存のフォーマット済 DOS (FAT) パーティションを編集してルート (/) という名前にします。

通常の Red Hat Linux のインストールの場合とは異なり、システムにパーティションを追加する訳ではないので、パーティションをフォーマットする必要はありません。

LIL0 (*L*inux*L*oader) とブートディスク

パーティションレスインストールでは、LIL0 (LInux LOader) の設定は行いません。通常のインストールの場合は、LIL0 のインストール先として -- マスタブートレコード (MBR) またはルートパーティションの先頭セクタ -- を選択したり、あるいは LIL0 をまったくインストールしないように選択したりすることができます。

パーティションレスインストールの場合に Red Hat Linux にアクセスするためにはブートディスクを作成しなければならないので、インストールの最後にブートディスクを作成するように指示されます。

性能について

専用パーティションがある場合よりも Red Hat Linux の動作は遅くなります。ただし、速度を気にしない場合は、パーティションレスインストールは、システムのパーティショニングを行わずに Red Hat Linux の機能を確認するには都合の良い方法です。

B.2 パーティションレスインストールの実行

DOS (FAT) ファイルシステムがある場合は、まず今回のインストールに提供できる、十分な空き領域を持った DOS (FAT) パーティションがあることを確認してください。

B.2.1 必要な容量

通常のインストールの場合と同様に、システムに Red Hat Linux をインストールするためには十分な利用可能領域がある必要があります。参考として、以下にインストール方法とそれぞれの場合の容量の最低要件をリストします。

このインストールクラスについての詳細は、1.1.7 ステップ 7 - どのインストールタイプが最適ですか?を参照してください。

- GNOME ワークステーション - 700MB
- KDE ワークステーション - 700MB
- サーバ - 1.7GB
- カスタム (すべてを選択した場合) - 1.7 GB

B.2.2 Disk Druid の利用

パーティションを追加したり、新しくパーティションを作成したりする訳ではないので、実際に Disk Druid (GUI パーティショニングツール) によって行う作業はあまり多くありません。

図 B-1 /として定義するための DOS (FAT) パーティションの選択



Disk Druid のメイン画面が表示された際に確認すべき点は、DOS (FAT) パーティションの一覧です (図 B-1 /として定義するための *DOS (FAT)* パーティションの選択を参照してください)。選択したインストールクラスのインストール先として、十分な空き領域をもった DOS (FAT) パーティションを選択してください。マウスでクリックするか、[Tab]、[Up]、および [Down] キーを使用して目的のパーティションをハイライトします。

目的のパーティションがハイライトされたら、[編集] を選択します。新たにウィンドウが表示され、このパーティションに名前を設定することができます (図 B-2 *DOS (FAT)* パーティションの編集を参照してください)。

[mount point] フィールドで、このパーティションに / (ルートを意味します) というラベルを付けてから [Enter] をクリックします。

図 B-2 DOS (FAT) パーティションの編集



マウントポイント: /

サイズ (メガバイト): 1

サイズを自動調整する

アロケーションの状態: 成功

パーティションタイプ: DOS 16-bit >=32M

選択可能なドライブ: sda

OK キャンセル

確認ウィンドウ (図 B-3 確認を参照してください) が表示され、インストールを本当に続行するか否かが尋ねられます。また、先程作成して / というラベルを付けた DOS パーティションの他には、システム上に Linux パーティションがあってはならないことも説明されます。続行するには [Yes] をクリックします。

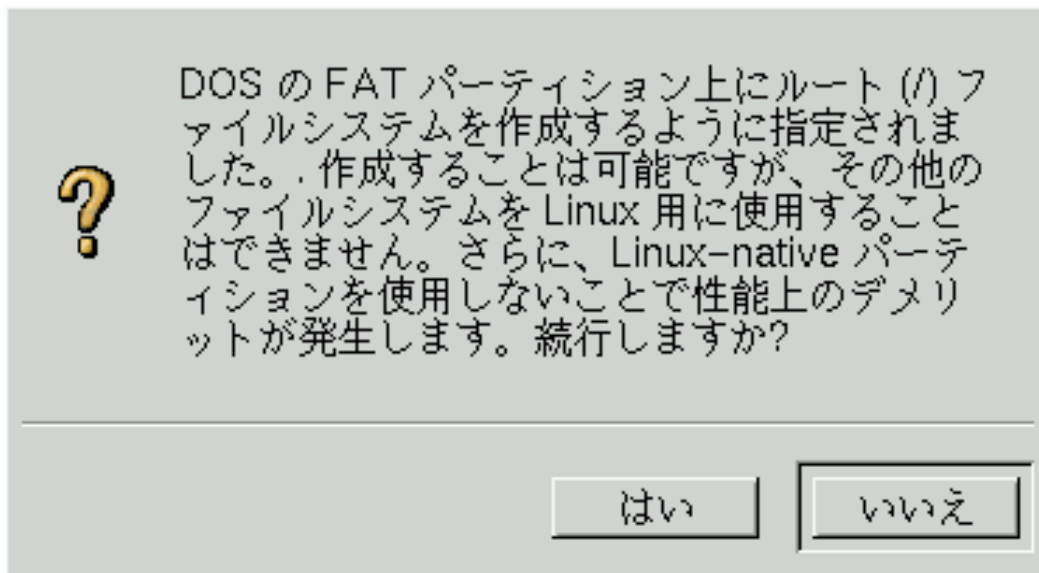
次に、この / パーティションのルートファイルシステムのサイズとスワップのサイズを決定できるようになります。

インストールプログラムが、ルートファイルシステムの最大サイズを決定します (図 B-4 ファイルシステムの設定)。推奨される最大サイズを超えない範囲において、好きなようにルートファイルシステムを作成することができます。

ルートファイルシステムとして作成するサイズは、ファイルシステム全体として利用できるディスク領域の合計の容量です (つまり、インストール

クラスが使用するサイズだけでなく、データの書き込みや保存を行うための領域も念頭に置く必要があります)。

図 B-3 確認

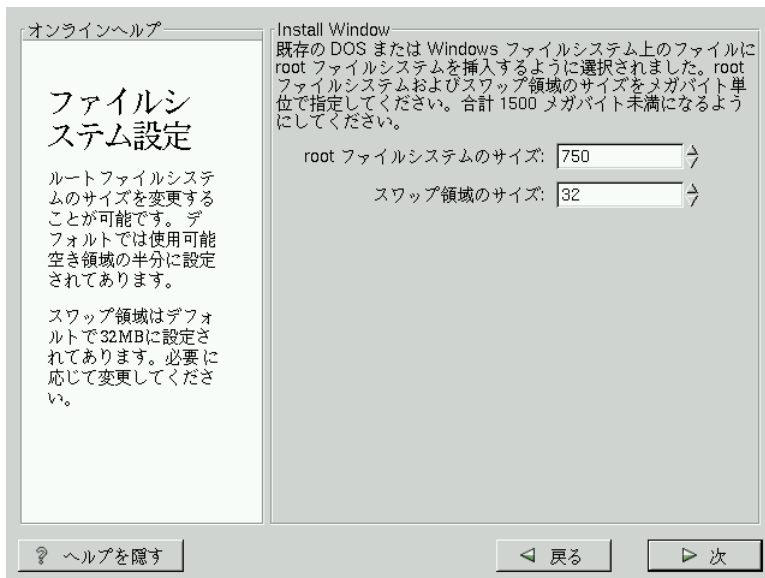


スワップ領域は、仮想メモリのような働きをします。言い換えると、処理中のデータを保存するために必要なメモリが足りない場合、データはスワップパーティションに書き込まれます。インストールプログラムは、デフォルトとして 32 MB のスワップを設定します。必要であればスワップのサイズを増やすこともできますが、256 MB よりも大きなスワップ領域を作成する必要はありません。

ここから先の指示については、メインインストールの章(3.7 ネットワークの設定を参照)の内容にしたがって作業を続けることができます。1つだけ異なる点は、ブートディスクを作成するように指示する画面です。ブートディスクを作成し、その他の指示に従って続けると、インストールが完了します。

Red Hat Linux をブートする場合は、インストール中に作成したブートディスクがフロッピードライブの中にあることを確認してください。システムをリブートすると、他の OS ではなく Red Hat Linux がブートします。他の OS をブートするには、ブートディスクを取り除いてからシステムをリブートしてください。

図 B-4 ファイルシステムの設定



B.2.3 パーティションレスでインストールしたファイルシステムをシステムから削除する方法

パーティションインストールによってインストールしたファイルシステムを取り除くためには、以下のファイルを削除してください。

```
redhat.img  
rh-swap.img
```

これらのファイルは、パーティションのルートディレクトリ (Dos/Windows では \ とされています) 中にあります。

これらのファイルを取り除くと、システムから Red Hat Linux が起動しなくなります。システムは以前の状態に戻るため、Red Hat Linux が使用していた領域に対して、通常通りにアクセスできるようになります。

C Red Hat Linuxの削除

Red Hat Linux をシステムからアンインストールするためには、マスタブートレコード (MBR) から LILO 情報を削除する必要があります。

マシンのマスタブートレコードから LILO を削除するための方法がいくつかあります。Linux 上からは `/sbin/lilo` コマンドを使用すれば、MBR を以前に保存しておいたバージョンの MBR と置き換えることができます。

```
/sbin/lilo -u
```

DOS、NT、および Windows 95 上からは、以下のようにすることができます。fdisk で「マニュアルにない」フラグ `/mbr` を使用して新しく MBR を作成します。これで MBR 「のみ」が書き直されて、プライマリ DOS パーティションがブートされるようになります。このコマンドは以下のようになります。

```
fdisk /mbr
```

Linux をハードドライブから削除する必要がある場合に、それを DOS のデフォルトの fdisk によって実行しようとする、「パーティションは存在するのに正しく認識されない」という問題に突き当たることになります。非 DOS パーティションを削除するための最適な方法は、DOS 以外のパーティションを認識するツールを使用することです。

この作業は、インストールフロッピーを使用し、`boot:` プロンプトに対して `"linux expert"` (引用符は付けません) と入力して行うことができます。

```
boot:linux expert
```

インストール (アップグレードではなく) を選択して、ドライブのパーティショニングの場面になったら、`[fdisk]` を選択します。fdisk で `[p]` と入力してパーティション番号を表示し、`[d]` コマンドを使用して Linux パーティションを削除します。変更内容に問題がない場合は、`[w]` と入力して終了すると変更がディスクに保存されます。必要な部分まで削除してしまった場合は、`[q]` と入力すると変更は適用されません。

Linux パーティションの削除が終了したところで、[Control-]-[Alt-]-[Delete] を押すと、インストールを続行せずにコンピュータをリブートすることができます。

索引

再帰

(「再帰」を参照)

選択	32
LILO	112
Red Hat Linux	112
XFree86	76
クロック	67
タイム	67
タイムゾーン	67
新機能	88
ATAPI Zip ドライブの認識	89
fdisk パーティショニングツール	88
kickstart における RAID 設定	89
RAID アップグレード	89
X の設定	88
インストール関連	88
パーティショニングなしのインストール	88
レスキューディスク機能	88
依存関係	
パッケージのアップグレード	94
パッケージのインストール	75
機能、6.2J の新機能 (「新機能」を参照)	
ENGLISH TERMS	
ATAPI CD-ROM 認識されない、に関する問題	31
autoboot	28

CD-ROM	
ATAPI	30
ATAPI、認識されない、に関する問題	31
IDE	30
IDE、認識されない、に関する問題	31
SCSI	30
その他	31
ブート可能	28
CD-ROM インストール	30
dd、でのインストールディスク ケットの作成	12
Disk Druid	48
ドライブ情報	52
パーティション	48
パーティション追加する場合の問題	51
パーティションの追加	54, 56-57
ボタン	53
fdisk	43
fsck	58
IDE CD-ROM 認識されない、に関する問題	31
LILO	59
設定	59, 112
MBR	59
SMP マザーボード	64
インストールしないという選択	62
上書き	62

- の代替手段63
 - 商用製品64
 - LOADLIN64
 - SYSLINUX.....64
 - ブートディスク64
 - の代わりにブートディスクを使用する62
 - ルートパーティション、にインストール59
 - LILO の設定59
 - Linux 系 OS
 - でのインストールディスクの作成12
 - LOADLIN64
 - MBR
 - に LILO をインストール.....59
 - MS-DOS
 - でのインストールディスクの作成12
 - OS/259
 - Partition Magic64
 - rawrite、でのインストールディスクの作成12
 - root パスワード68
 - SMP マザーボード
 - LILO.....64
 - swap50
 - サーバ自動パーティション ..17
 - 手動によるパーティショニング49
 - ワークステーション 自動パーティション15
 - SYSLINUX.....64
 - System Commander64
 - X、設定
 - GUI ツール76
 - X の設定76
 - Xconfigurator.....76
 - ビデオカードの設定78
 - モニタの設定76
 - XFree86
 - 設定76
-
- ア
- アップグレード90
 - 説明90
 - カスタマイズ91–92
 - 解決されていない依存関係 ..94
 - パッケージ91
 - パッケージの選択92
 - アンインストール 112
-
- イ
- インストール
 - 開始30, 32
 - 準備 4
 - CD-ROM..... 29–30
 - FTP29
 - HTTP29
 - NFS イメージ29
 - Red Hat Linux の入手..... 5
 - テキストモード
 - (『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』を参照)
 - ネットワーク経由

- (『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』を参照)
- パーティショニングなしのインストール 104
- ハードディスクドライブ 29
- インストール方法
- 選択 29
- CD-ROM 29
- FTP 29
- HTTP 29
- IDE CD-ROM 関連 31
- NFS イメージ 29
- テキストモード
- (『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』を参照)
- ハードディスクドライブ 29
- インストール、開始 22
- インストールクラス 38
- インストールの開始 30
- インストールの取消 32
- インストールプログラム
- 起動 24
- 仮想コンソール 23
- フロッピーを使用しないブート方法 28
- ユーザインタフェース 22
- インストールプログラムの起動 24
- インストールモード、エキスパート 26
- インストールモード、シリアル 27
- インストールモード、テキスト 26
- (『*Official Red Hat Linux* リファレンスガイド』を参照)
-
- オ
-
- オプション、カーネル 27
-
- カ
-
- カーネルオプション 27
-
- キ
-
- キーボード
- 設定 33
- キーボードタイプ
- 選択 33
- キーマップ
- キーボードタイプの選択 33
-
- ク
-
- クラス
- インストール 38
- クロック 67
-
- コ
-
- コンソール、仮想 23
- 仮想コンソール 23

サ

- サポート、テクニカル
 (「テクニカルサポート」を
 参照)
 解決されていない依存関係
 フルインストール75
 解決されていない依存関係
 アップグレード94

シ

- システムのパーティション設
 定48
 シリアルモード、インストー
 ル27

タ

- タイムゾーンの設定67

テ

- ディスク
 ブート62
 ディスケット
 PCMCIA サポート、作成11
 ネットワークブート、作成 ..11
 ブート、作成11
 ディスケット、Linux 系 OS での
 作成12
 ディスケット、MS-DOS での作
 成12
 テキストモードのインストール

- (『*Official Red Hat Linux* リ
 ファレンスガイド』を参照
)
 テクニカルサポート98
 登録
 Web 経由 101
 ご質問の依頼方法 103
 他社製品についてはサポートさ
 れません。 100
 のためのユーザー登録 101
 ポリシーの概要98
 問題をご説明いただく方法 103

ネ

- ネットワークの設定65

ノ

- 認証の設定70
 MD570
 NIS70
 シャドウ70
 個々のパッケージ73
 選択73
 未割当のパーティション51

ハ

- パスワード
 root の設定68
 パッケージ
 選択72
 インストール72

パッケージグループ	72
選択	72
パッケージの選択	72
パッケージのインストール	72
パーティショニング	48
自動的	46
fdisk による	43
パーティショニングのインストール	48
パーティションの問題	51, 54, 56-57
パーティションのフォーマット	58
パーティションレスインストール	104
実行	105
舞台裏	104
インストールクラスオプション	14
容量に関する要件	106
パーティション設定を自動的に行う	46
サーバ	46
ワークステーション	46

フ

ブート可能 CD-ROM	28
ブートディスク	62

マ

マウス、設定	34
マスタブートレコード MBR を参照	59

ユ

ユーザアカウント 設定	70
ユーザアカウントの作成	70
ユーザインタフェース、インストールプログラム	22

レ

レスキューモード	63
----------------	----